

## はじめに

令和 5(2023)年度の愛知県陶磁美術館の活動を振り返ると、大きく三つの動きから成ることが分かります。一つ目は、特別展「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ－」が最終日を迎えた6月18日までの期間、愛知県陶磁美術館が長いお休みの期間に入るまでで、愛陶にとっての通常の活動です。二つ目は、本館、南館、陶芸館という展示や作陶のための全館が閉館となるのに伴って始まった動きです。館で出来ないならば外へ行こうと言うことで、県内各所に飛び出して行われた活動です。そして最後の動きとは、来るべき再開に向けて、まさしく胎動というべき活動です。

最初の動きはこの館報でのそれぞれの報告からご覧いただきましょう。二つ目の動きである館外活動は、新たな可能性を模索するという意識を持ちながら行われました。愛陶コレクションによる他館での展示では、豊川市桜ヶ丘ミュージアムでの「AICHI やきもの ざんまい」、愛知県美術館でのコラボ展としての「コレクションズ・ラリー」と、開催館毎に全く異なる意識に立っての展示を実現しています。陶芸館チームも積極的に外に出ています。愛陶ならではのワークショップの経験なども活かしながら、各地で作陶の魅力を、種を蒔くように伝えていく様々な活動を展開しています。

長寿命化のための今回の長期休館も、2024年11月の陶芸館再開に始まり、2025年4月本館が開館、その後国際芸術祭の会場となった後に南館の開館と、新しい愛陶としての姿を皆様の前にお届けします。そこに向かって、そして次の50年に向けて、館全体として考える、これが三つ目の動きです。「ようこそ」の館の実現には何をすべきか、本館、南館の常設展示はどうあるべきか、古窯館、復元古窯といった貴重な屋外展示群や作陶体験という絶対的な楽しさの持つ魅力をより多くの人に伝えるには。全館で取り組んでいるこの動きこそは館報にはなかなか現れることのない、だけれども愛陶の将来にとってとても大切な動きなのです。その成果をご覧いただくのには、もう少しお待ち下さい。

最後は昨年度の館報と同じ言葉で終わります。全国でも最大規模の陶磁専門の美術館として、愛知の、東海の、日本の、そして世界の皆様に楽しんでいただける館となること。それを目標として活動し、積み重ね、そしてこれからも変わってまいります。これまで同様、どうぞご支援、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

2024年7月

愛知県陶磁美術館

総長 伊藤 嘉章

## 目 次

I	事業及び施設の概要	3
II	2023 年度事業	6
1	本館展示	7
	(1) 特別展・企画展           7           / (2) 常設展・特集展示等           9	
2	南館展示	11
	(1) 常設展                   11           / (2) テーマ展                   11	
3	館外展示	12
4	休館中の取組	13
5	共催展示	17
6	所蔵資料	18
	(1) 資料収集               18           / (2) 資料活用                   33	
	(3) 資料保存               41	
7	調査・研究	42
	(1) 研究紀要               42           / (2) 研究論文等               42	
	(3) 講演、講義等       43           / (4) 審査員、委員等   44	
8	教育・普及	45
	(1) 学校連携事業       45           / (2) 地域の大学との連携       45	
	(3) 館内実施講座       46           / (4) 館外実施講座・講義       46	
	(5) ボランティア       48	
9	陶芸館	49
	(1) 通年事業：陶芸実習   49           / (2) 「はじめての陶芸館」       50	
	(3) 地域連携             51           / (4) 休館中の取組             54	
10	地域連携	60
	(1) 愛知県内             60           / (2) 広域                   61	
11	現代陶芸魅力発信事業	62
12	魅力向上推進事業	64
13	広報活動	65
14	事業活性化の取組	68
15	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について	69
16	長寿命化改修工事等に伴う休館について	69
III	参考資料	70
1	組織及び事務分掌	70
2	決算額（2023 年度）	71
3	愛知県陶磁美術館運営会議（2023 年度）	72
4	愛知県陶磁美術館資料委員会（2023 年度）	73
5	利用者の状況	74
6	沿革	79

# I 事業及び施設の概要

## 1 事業の概要

愛知県陶磁美術館は、美術的、歴史的、産業的に貴重な陶磁資料の保存を図り、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民のやきものづくり体験の事業を行っている。

### 愛知県陶磁美術館条例（抜粋）

（設置）

第一条 陶磁文化の振興及び陶磁器に関する文化財の保存並びに住民の陶芸に対する教養の向上を図り、併せて陶磁器産業の発展に寄与するため、愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）を瀬戸市に設置する。

### 愛知県陶磁美術館基本理念

「土」という自然素材を焼くことにより生み出されたやきものは、原始時代から現代まで、世界中の人々の生活に不可欠なものとして、暮らしと産業を支えてきました。同時にやきものの特徴である文様や造形、土や釉薬の輝きや色などは、我々の美的感性や創造性を刺激し、現在も多くの芸術作品が生み出されています。

当館は、こうしたかけがえのない歴史的な文化財や芸術作品など、様々な魅力を湛えたやきものを中心とした美術館として、多くの人々に鑑賞、制作、学習等の機会を提供することにより、人々の知性と感性を高め、創造的で多様性のある心豊かな地域社会の実現を目指します。

## （1） 展示

陶磁文化の普及・向上のため、各種の展示活動を実施している。

本館では美術的、歴史的陶磁資料を中心に、古代から現代までの日本及び世界の陶磁の常設展示を開催している。さらに特別展や企画展では、さまざまなテーマによって、時間的、空間的、分野的に幅広い種類の陶磁作品を紹介している。本館のシンボリックな展示となっている「リ・デザイン・狛犬」は郷土の民俗文化財である狛犬を紹介している。

南館では愛知のやきものをテーマに、現在の瀬戸・常滑・名古屋周辺・高浜周辺を取り上げ、愛知の陶磁史も併せて紹介している。古窯館では、実際に発掘された古窯を保存・展示している。

## （2） 資料

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁器、海外の代表的な窯業地の陶磁器、国内外の現代陶芸作品、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ること基本方針としている。

## （3） 調査・研究

学会への参加・研究発表を行い、国内外の美術館、博物館、研究機関と交流している。

## （4） 教育・普及

陶磁文化の普及・向上を目指し、展示会の理解をより深めるための講演会、ギャラリートーク、ワークショップなどを開催している。また、小中学校、高校、特別支援学校や大学など学校教育との連携事業や、地域の施設、団体との連携事業に取り組んでいる。

## （5） 広報活動

館の活動を紹介するため、広報宣伝用印刷物の作成と配布、公式WEBページやSNSでの情報提供など広報活動を行っている。

## （6） 陶芸館

教育・普及事業の一環として、陶芸実習の希望者に対し通年で陶芸指導を行うとともに、例年の陶芸教室や古窯焼成実験、展示と連携したワークショップなどを開催している。

## 2 施設の概要

### (1) 所在地

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

### (2) 規模

- 敷地 280,480.47 m<sup>2</sup>
  - 建築面積／延床面積／基本構造
- |     |                          |   |                          |   |                        |
|-----|--------------------------|---|--------------------------|---|------------------------|
| 総計  | 10,228.88 m <sup>2</sup> | ／ | 20,968.60 m <sup>2</sup> |   |                        |
| 本館  | 6,387.00 m <sup>2</sup>  | ／ | 14,792.45 m <sup>2</sup> | ／ | 地上3階地下1階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り |
| 南館  | 1,475.42 m <sup>2</sup>  | ／ | 1,519.39 m <sup>2</sup>  | ／ | 平屋一部2階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り   |
| 西館  | 275.50 m <sup>2</sup>    | ／ | 232.75 m <sup>2</sup>    | ／ | 平屋建 鉄筋コンクリート造り         |
| 陶芸館 | 1,442.25 m <sup>2</sup>  | ／ | 3,541.41 m <sup>2</sup>  | ／ | 地上1階地下2階建 鉄筋コンクリート造り   |
| 古窯館 | 360.79 m <sup>2</sup>    | ／ | 344.00 m <sup>2</sup>    | ／ | 平屋建 鉄骨造り               |
| 茶室  | 160.36 m <sup>2</sup>    | ／ | 148.23 m <sup>2</sup>    | ／ | 平屋建 鉄筋コンクリート造り         |
| その他 | 127.56 m <sup>2</sup>    | ／ | 390.37 m <sup>2</sup>    |   |                        |

### (3) 開館時期

本館	1979年10月13日		(工期 1977年12月23日～1979年3月20日)
	1994年7月6日	[増築開館]	(工期 1991年10月16日～1993年11月30日)
南館	1978年6月1日		(工期 1976年12月25日～1978年3月20日)
西館	1982年12月4日		(工期 1982年6月30日～1982年12月4日)
陶芸館	1986年4月12日		(工期 1985年10月3日～1986年3月20日)
	1994年4月1日	[増築開館]	(工期 1991年10月16日～1993年11月30日)
古窯館	1994年4月1日		(工期 1992年9月29日～1993年3月18日)
茶室	1981年11月26日		(工期 1981年5月1日～1981年11月26日)

### (4) 博物館法、文化財保護法上の位置付け

博物館相当施設（博物館法第31条）

重要文化財公開承認施設（文化財保護法第53条）

### (5) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

### (6) アクセス

<公共交通機関>

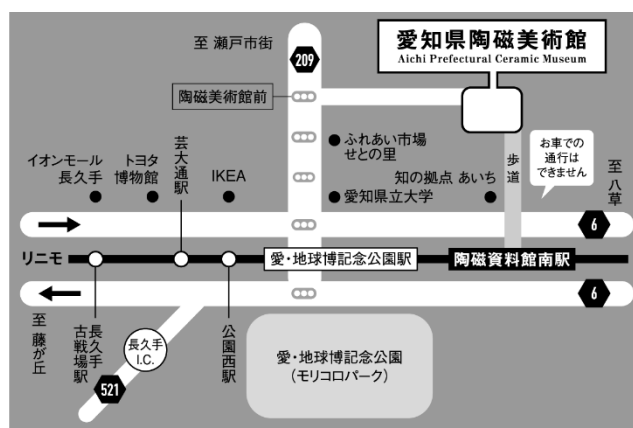
- リニモ（東部丘陵線）「陶磁資料館南」駅下車、徒歩600m
- 名鉄バス「瀬戸駅前」（名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」）のりば1から、「菱野団地」経由「愛・地球博記念公園」行き「陶磁美術館」下車、※土・日・休日のみ運行（休館中は運行中止）

<自家用車>

- 東名高速道路「日進JCT」経由、名古屋瀬戸道路「長久手IC」から足助・瀬戸方面に約5km
- 東名高速道路「名古屋IC」・名二環道「本郷IC」から瀬戸・長久手・足助方面に約10km
- 東海環状自動車道「せと赤津IC」から約7km

<タクシー>

- 地下鉄東山線・リニモ「藤が丘」駅から約20分
- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から約15分



### (7) 観覧料

一般（個人） 一般 400円、高・大学生 300円、中学生以下 無料  
団体（20人以上） 一般 320円、高・大学生 240円  
企画展はその都度決める

### (8) 休館日

月曜日（月曜日が休館の場合はその直後の平日）、2023年6月19日（月）から改修工事により長期休館

(9) 各施設の外觀

やきものって、  
なんだかワクワクする！



本館



南館



西館



陶芸館



古窯館



茶室「陶翠庵」

## II 2023 年度事業

### 1～5 本館展示、南館展示、休館中の取組、共催展示

長期休館期間の始まる前までは、古代から現代までの日本及び世界の陶磁、あるいは国内外の優れた陶芸家の作品などを、様々なテーマによって幅広く紹介した。長期休館期間開始後からは出張展示や共催展示を通して、当館所蔵資料を他館にて展示活用した。

<2023 年度展示一覧>

1 本館展示	(1) 特別展「日本工芸会陶芸部会 50 周年記念展 未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ－」	7
	会期：4月15日（土）－6月18日（日）	
	(2) ①常設展「日本と世界のやきもの」	9
	会期 4月1日（土）－6月18日（日）	
	②常設展「現代の陶芸 いきもの×やきもの 新収蔵記念展示」	9
	会期 4月1日（土）－4月7日（金）	
	③特集展示「茶器済済」	10
	会期 4月1日（土）－6月18日（日）	
	④特集陳列「青磁の色はなぜいろいろ」	10
	会期 4月1日（土）－6月18日（日）	
⑤陶製狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」	10	
会期 4月1日（土）－6月18日（日）		
⑥ロビー展示「瀬戸・常滑作家コーナー」	10	
会期 4月1日（土）－4月26日（水）		
2 南館展示	(1) 常設展「もっと伝えたい、愛知のやきもの」	11
	会期 4月1日（土）－6月18日（日）	
	(2) テーマ展「名古屋絵付けって何？②金盛り&たたき技法」	11
会期 4月5日（水）－6月18日（日）		
3 館外展示	(1) ①サテライト展示「民芸運動とやきもの」愛知芸術文化センター	12
	会期 4月1日（土）－2024年1月14日（日）	
	②サテライト展示「愛知の華やかなやきもの 犬山焼」愛知芸術文化センター	12
会期 2024年1月16日（火）－3月31日（日）		
4 休館中の取組	(1) ①出張展示「AICHI やきもの ざんまい」豊川市桜ヶ丘ミュージアム	13
	会期 12月16日（土）－2024年1月28日（日）	
	②共同企画「コレクションズ・ラリー」愛知県美術館	15
会期 2024年1月16日（火）－4月14日（日）		
5 共催展示	(1) ギャラリーの貸出し「瀬戸×常滑 陶芸－同じ時をつくる－」	17
	会期 4月29日（土・祝）－5月28日（日）	

## 1 本館展示

### (1) 特別展・企画展

#### 特別展「日本工芸会陶芸部会 50 周年記念展 未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ—」

本展は日本工芸会陶芸部会 50 周年を記念し、同会で活躍した作家の秀作とともに、その活動の歴史を振り返る内容であった。歴代の重要無形文化財保持者（人間国宝）作品をはじめ、窯業地ならではの素材と伝統を受け継いだ作家らによる作品、未来を担う若手作家らの作品など、137 名の作家による名品 139 点を紹介した。

会 期	4 月 15 日(土)－6 月 18 日(日)
開催日数	57 日間
会 場	本館 1 階第 1・第 2 展示室、本館地下 1 階 第 7 展示室
主 催	愛知県陶磁美術館、公益社団法人日本工芸 会、NHK エンタープライズ中部
後 援	愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社 (リニモ)
担 当	学芸員 入澤聖明、主任学芸員 小川裕紀
観覧者数	4,654 人
印刷物	図録 (A4 変形判 208 頁) ポスター B2 判、チラシ A4 判

展示構成 第 I 章「伝統工芸（陶芸）の確立」  
第 II 章「伝統工芸（陶芸）のわざと美」  
第 III 章「未来へつなぐ伝統工芸（陶芸）」

#### 関連行事

##### ◇記念講演会①「日本の伝統陶芸の歴史的展開と未来への展望」

日 時	4 月 15 日(土) 13:30－15:00
講 師	唐澤昌宏氏 (国立工芸館館長／本展監修者)
会 場	講堂
参加者数	45 人

##### ◇記念講演会②「東海陶芸の伝統を語る～つくり手の視点から」

日 時	5 月 14 日(日) 13:30－15:00
講 師	梅本孝征氏 (陶芸家／本展参加作家) 鈴木 徹氏 (陶芸家／本展参加作家)
聞き手	総長 伊藤嘉章
会 場	講堂
参加者数	44 人

##### ◇レクチャー&実演イベント「技をみる～染付の世界～」

日 時	4 月 29 日(土・祝) 13:30－15:30
講 師	小枝真人氏 (陶芸家／本展参加作家)
会 場	展示説明室
参加者数	34 人

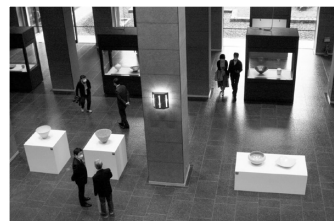
##### ◇連続講座

###### ①「中国陶磁と伝統工芸」

日 時	4 月 30 日(日) 13:30－1 時間程度
講 師	主任学芸員 田畑 潤
参加者数	37 人



B2 ポスター



展示風景

②「日本中世陶磁と伝統工芸」

日 時 5月7日(日) 13:30-1時間程度  
講 師 主任学芸員 小川裕紀  
参加者数 22人

③「日本近世陶磁と伝統工芸」

日 時 6月3日(土) 13:30-1時間程度  
講 師 学芸員 佐久間真子  
参加者数 24人

④「現代陶芸のなかでの伝統工芸」

日 時 6月10日(土) 13:30-1時間程度  
講 師 学芸員 入澤聖明  
参加者数 26人  
会 場 各回、講堂

◇学芸員のギャラリーツアー

日 時 ①4月22日(土)、②5月5日(金・祝)、③5月27日(土)  
④6月18日(日) 13:30-1時間程度  
参加者数 ①8人、②22人、③24人、④24人(計78人)

◇中日文化センター講座

愛知県陶磁美術館協力講座 特別展「未来へつなぐ陶芸-伝統工芸のチカラ」から  
日時会場 (講 義) 5月19日(金) 10:30-12:00 栄中日文化センター  
(鑑 賞) 5月26日(金) 13:00-14:00 当館  
講 師 学芸員 入澤聖明  
参加者数 8人

◇朝日カルチャーセンター講座

「人間国宝らの名品にみる陶芸のチカラ その伝統美と技」  
日時会場 (講 義) 5月30日(火) 10:30-12:00 朝日カルチャーセンター  
(鑑 賞) 6月6日(火) 10:30-12:00 当館  
講 師 学芸員 入澤聖明  
参加者数 6人

主要関連記事

井上昇治「愛知県陶磁美術館 特別展 日本工芸会陶芸部会50周年記念展 未来へつなぐ陶芸-伝統工芸のチカラ- 2023年4月15日-6月18日」  
(OutermostNAGOYA 4月4日から掲載)

定性評価-自己評価-

日本工芸会陶芸部会の50周年を記念して企画された本展は、歴代の人間国宝(陶芸)の名品をはじめ、各産地を牽引してきた陶芸家の優品や、今後が期待される若手の作品に至るまで、幅広くその歩みとこれからを紹介する内容であった。当館は企画段階から積極的に関わることで、他館の学芸員とともに展示会の骨子を作り上げた。展示においては当館展示室の広さや、外光を取り込める展示環境を有効活用しつつ、作品のひとつひとつがしっかりと鑑賞できるように心がけた。また、人間国宝の指定・認定年表パネルや、作家の活動地キャプションを当館独自のコンテンツとして組み込んだことで、パッケージ化された巡回展でありながら、さらなる付加価値の創出に取り組むことができた。しかしながら巡回館が多く、かつ巡回の順番も終わりの方だったこともあり、集客にはやや苦戦した。

## (2) 常設展・特集展示等

### ① 常設展 「日本と世界のやきもの」

基幹展示とトピック展示で大別して構成している。基幹展示は、名品部門と通史部門を設置。世界各地の古陶磁について、前者は単体展示、後者は集合展示の資料配置で展示紹介している。

名品部門は、所蔵品から選りすぐった優品を紹介する提示型展示（鑑賞型展示）としている。

通史部門は、完器による概説展示と、古窯陶磁資料による収蔵的展示からなる二元展示としている。前者は所蔵資料を中心とした、日本、韓国、中国等の地域別、時代順の展示である。後者は全国の調査研究機関等から借用した、窯跡から出土した陶片資料の展示である。

第3展示室の特集展示コーナーでは、「茶器済済」を開催した。また第5展示室の特集陳列コーナーでは、「青磁の色はなぜいろいろ」を開催した。

会 期 4月1日(土)－6月18日(日)

開館日数 69日

会 場 本館2階 第3－第6展示室

出品件数 名品部門 38件

通史部門及びトピック展示

日本ゾーン 176件

古窯陶片資料 1,267件

外国ゾーン 中国陶磁 116件

韓国陶磁 32件

その他外国陶磁 120件

観覧者数 2,816人



名品選 (第3展示室・西室)



日本のやきもの (第3展示室・東室)



世界のやきもの (第6展示室)

### ② 現代の陶芸 いきもの×やきもの 新収蔵記念展示

前年度に続いて現代陶芸におけるいきものの表現に着目し、当館コレクションからその魅力を紹介した。また、あわせて近年収蔵された作品を展示した。

会 期 4月1日(土)－4月7日(金)

会 場 本館地下1階 第7展示室

開館日数 6日

出品件数 25件

担 当 学芸員 入澤聖明

観覧者数 100人



《陶製置物〈ライオン〉》  
製造：グスタフスベリ製陶所、  
デザイン：リサ・ラーション  
1960年代



《Modern Remains Thunderbolt》  
竹内紘三 2019年

### ③ 特集展示「茶器濟濟」<sup>ちやきさいさい</sup>

常設展「日本と世界のやきもの」において、茶の湯と煎茶道具取り合わせコーナーを設けることによって、両茶文化をより効果的に紹介した。日本には茶の湯と煎茶の茶文化があり、それぞれの茶事を彩る茶器は季節や場にに合わせて様々な取り合わせがみられる。両茶文化の取り合わせについて、やきものを中心に取り上げ、季節ごとのしつらえやテーマ性を持たせて紹介することにより、両茶文化の新たな魅力を引き出すことを目的としている。

会 期 4月1日(土)－6月18日(日)  
出品件数 12件  
担 当 主任学芸員 田畑 潤、学芸員 宮川菜々子



特集展示「茶器濟濟」

### ④ 特集陳列「青磁の色はなぜいろいろ」

定義の広い「青磁」というやきものの疑問を、色の違いに注目して答えることをテーマとして開催した。青磁＝青色ではないこと、長い歴史の中で色が変化してきた背景を知ったうえで、色を比較してもらうことを目的とし、時代・地域の異なる中国・韓国・日本の青磁を取り上げた。解説パネルでは、青磁の色が様々な理由と、展示の最後にはコラムとして用語のややこしさについての疑問にも答える内容とした。

会 期 4月1日(土)－6月18日(日)  
出品件数 8件  
担 当 学芸員 小川咲良



特集陳列「青磁の色はなぜいろいろ」

### ⑤ 陶製狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」

本展示は、2021年度から引き続き現代陶芸魅力発信事業の一環として開催した。(詳細は62頁を参照)

会 期 4月1日(土)－6月18日(日)  
会 場 本館1階ロビー  
出品件数 80件  
担 当 学芸員 佐久間真子



陶製狛犬展示「リ・デザイン・狛犬」

### ⑥ ロビー展示「瀬戸・常滑作家コーナー」

瀬戸陶芸協会並びに常滑陶芸作家協会の協力のもと、瀬戸・常滑で活躍する地元作家を紹介した。  
(瀬戸)梅村知弘氏、春日井鋼介氏、加藤令吉氏、太田公典氏  
(常滑)水野真澄氏、水野陽景氏、水野静仙氏、村越風月氏

会 期 4月1日(土)－4月26日(水)  
開館日数 22日  
会 場 本館地下1階 講堂前ロビー  
出品件数 8件  
観覧者数 264人



ロビー展示「瀬戸・常滑作家コーナー」

## 2 南館展示

### (1) 常設展

#### 「もっと伝えたい、愛知のやきもの」

##### 「愛知のやきもの「今」」 (南館1階展示室)

瀬戸、常滑、高浜周辺、名古屋周辺における各陶産地で作られるやきものの「今」について、「街、人、やきもの」をテーマに紹介。また、展示室中央部分で3回のテーマ展を開催した。

##### 「愛知のやきもの1万年」 (南館2階展示室)

通史展示部門とトピック展示部門を設置。前者では原始から近世にかけての愛知県の陶磁史を遺跡出土資料や伝世資料によって紹介。後者では、愛知用水関連資料及び古陶磁鑑賞の展示コーナーを設けて紹介した。

※協力：愛知県埋蔵文化財調査センター、  
あいち朝日遺跡ミュージアム、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

会 期	4月1日(土) - 6月18日(日)
開館日数	69日
会 場	南館1階及び2階展示室
出品件数	1階展示室132件、2階展示室228件
観覧者数	1,469人



1階 常設展「愛知のやきもの「今」」



2階 常設展「愛知のやきもの1万年」

### (2) テーマ展

#### 「名古屋絵付って何? ②金盛り&たたき技法」

名古屋における海外輸出向けの陶磁器絵付け、いわゆる「名古屋絵付け」は、華やかな絵付け技法を生み出した。現在は輸出の減少により規模は縮小されたが、一部の製陶所で名古屋絵付けの技が伝えられ、また現代のクリエイターたちによって伝統の技を次代に引き継ぐ新たな取り組みも行われている。

本展では名古屋絵付けの技の中から、盛上げ技法を応用した<金盛り>と、ペースト状の油溶き絵の具をたたきようにして着色する<たたき技法>を中心に紹介した。

会 期	4月5日(水) - 6月18日(日)
開館日数	65日
会 場	南館1階展示室 展示室中央
主 催	愛知県陶磁美術館
出品件数	42件
展示構成	I <金盛り> II <たたき技法> III <名古屋絵付けのスゴ技>
出品作家	杉山ひとみ、安藤栄子
担 当	学芸員 鮫島由佳、学芸課長 大槻倫子
観覧者数	1,427人



ポスター  
ビジュアルに杉山ひとみ氏作品を使用



安藤栄子氏作品

### 3 館外展示

#### (1) サテライト展示

##### ①「民芸運動とやきもの」

会 期 4月1日(土) - 2024年1月14日(日)  
開催日数 289日  
会 場 愛知芸術文化センター地下1階  
主 催 愛知県陶磁美術館  
出品件数 5件  
担 当 学芸員 入澤聖明



「民芸運動とやきもの」

##### ②「愛知の華やかなやきもの 犬山焼」

会 期 2024年1月16日(火) - 3月31日(日)  
開催日数 76日  
会 場 愛知芸術文化センター地下1階  
主 催 愛知県陶磁美術館  
出品件数 5件  
担 当 学芸員 佐久間真子



「愛知の華やかなやきもの 犬山焼」

## 4 休館中の取組

### (1) 出張展示

#### ① 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

#### 「AICHI やきもの ざんまいー愛知県陶磁美術館の名品をあじわいつくすー」

愛知は長い間、日本のやきものにおいて中心的な産地であった。本展覧会では、豊川市桜ヶ丘ミュージアムと共催し、長い時間をかけ伝統と革新を重ねながら発展していった愛知のやきもの歴史と技を、当館コレクションの選りすぐりの名品から紹介した。

会 期 12月16日(土)ー2024年1月28日(日)  
 開館日数 34日  
 会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1～3展示室  
 主催 豊川市桜ヶ丘ミュージアム、愛知県陶磁美術館  
 担当 愛知県陶磁美術館

学芸員 鮫島由佳、学芸課長 大槻倫子  
 学芸員 入澤聖明、学芸員 宮川菜々子  
 石川かおり氏(豊川市桜ヶ丘ミュージアム学芸員)

出品件数 120件  
 観覧者数 2,957人  
 図録等 展覧会リーフレット(A4版巻き3つ折り)  
 ポスターB2版、チラシA4版  
 展示構成 第一章「やきもの王国の誕生！」  
 第二章「愛知が誇るツートップ」  
 第三章「花ひらくやきもの文化」  
 第四章「愛知のやきもの世界へ！」  
 第五章「新たな表現に挑む！」



A4 チラシ



会場内配布リーフレット表紙



リーフレット内面

## 関連行事

### ◇ワークショップ愛知の陶芸家の技を体験しよう！

前田正剛「釉薬で描く」蠟抜き・釉薬の掛分による制作体験  
講 師 前田正剛氏（陶芸家）  
日 時 2024年1月20日（土）14:00-15:30  
参加者数 18人  
会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1実習室

### ◇愛知県陶磁美術館学芸員によるギャラリートーク

日 時 ①12月17日（日）「古代～近世のやきもの編」  
②1月28日（日）「近代～現代のやきもの編」  
各日とも 14:00-15:00  
会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 第1～3展示室  
解 説 ①学芸員 大西 遼、学芸員 宮川菜々子 ②学芸課長 大槻倫子、学芸員 入澤聖明  
参加者数 ①36人、②47人

### ◇茶室ミニコンサート「このひとときオカリナの調べを」

日 時 12月23日（土）①11:30-、②13:30-（40分程度）  
会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 茶室  
演 奏 オカリナアンサンブル補欠人(ぼけっと)  
参加者数 ①24人、②20人

## 主要掲載記事

東海ラジオ「DRIVER'S REPORT」（2023.12.22）

## 定性評価－自己評価－

他館での開催ということもあり、愛知のやきものや歴史に詳しい来館者だけでなく、これまで当館に訪れたことのない層も楽しめるようにした。展示は時代順とし、愛知のやきものの変化やひろがりの様子分かるよう構成した。会場の豊川市桜ヶ丘ミュージアムは、通常は市内の歴史や絵画、書籍の展示が中心であり、やきものに特化した展示は少ないため、解説はキャッチコピーを設けるなど作品の世界に入り込みやすくする工夫を講じた。コラムでは、「茶の湯」「やきものでこんなものまで作っちゃった」「きゅん対決」など、そのコーナーだけでも楽しめる内容とし、これは来館者に非常に好評であった。

会場内では、展示の内容を簡易にまとめたリーフレットを配布した。小学校高学年程度が理解できる内容とし、持ち帰って展示を振り返ることができるように作成した。

会場アンケートの結果から見ると、来館者の年齢層は50代～70代が中心であり当館と同様であった。一方で、居住地域は会場館である豊川市が多く、その周辺地域や静岡県など、これまでと違った来館者層を呼び込むことができた。当館及びやきものに関心の薄かった層への周知につながり、館外展示として役割を達成できたと考える。



展示風景



## ② 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館共同企画「コレクションズ・ラリー」

愛知県美術館と愛知県陶磁美術館のコレクション計 17,000 件以上の中から、両館の 4 人の学芸員がそれぞれ独自の視点でテーマを立て、オムニバス形式で作品紹介する展覧会とした。

会 期 2024 年 1 月 16 日（火）－4 月 14 日（日）  
 開催日数 78 日  
 会 場 愛知県美術館  
 主催 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館  
 担当 石崎 尚（愛知県美術館 主任学芸員）、  
 中野 悠（愛知県美術館 学芸員）  
 学芸員 佐久間真子、学芸員 大西 遼

出品件数 134 件  
 観覧者数 11,130 人  
 広報出版 ポスター B2 判、B3 判、チラシ A4 判  
 展示構成 第一章「JOMON」  
 第二章「うーまんめいど」  
 第三章「ハードロック・ヘヴィメタル」  
 第四章「祈り」



A4 チラシ

### 関連行事

◇トークラリー（学芸員による展示説明会）

日 時 ①2024 年 1 月 21 日（日）②2 月 10 日（土）③4 月 6 日（土）各回 11:00－12:00  
 ④3 月 8 日（金）18:30－19:30

解 説 ①石崎 尚（愛知県美術館 主任学芸員）・学芸員 佐久間真子  
 ②石崎 尚（愛知県美術館 主任学芸員）・学芸員 大西 遼  
 ③中野 悠（愛知県美術館 学芸員）・学芸員 佐久間真子  
 ④中野 悠（愛知県美術館 学芸員）・学芸員 大西 遼

参加者 ①34 人、②30 人、③30 人、④40 人

### 主要掲載記事

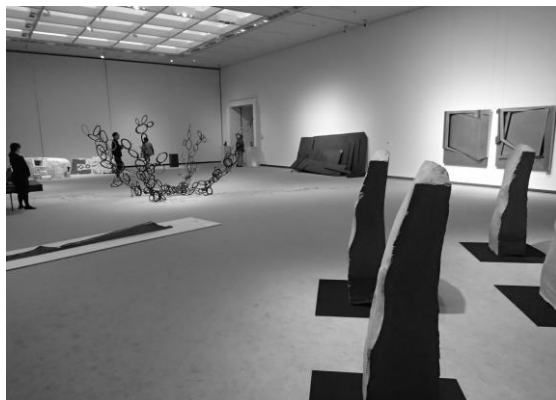
「現代、古代 コラボ展示も 愛知県美と県陶磁美術館の作品を一堂に」（中日新聞 2024. 2. 9）

連載「美博ノート」（岐阜新聞 2024. 2. 21/2. 28/3. 6/3. 13）

「愛知県美術館で県陶磁美術館と共同展覧会 4 人の学芸員が企画」（サカエ経済新聞 2024. 1. 18）

連載「美博ノート」（朝日マリオン・コム 2024. 2. 21/2. 28/3. 6/3. 13）

「レビュー「コレクションズ・ラリー」 ～2つのコレクションが交わる場所で新たな魅力を見つけ出す～」（美術展ナビ 2024. 3. 30）



展示風景



本展は、当館と愛知県美術館（以下、県美術館）の両館から4名の学芸員を動員し、2館の展示作品をほぼ同量ずつ出陳し、県美術館の企画展示室を全室使用するという、2館間でもかかってない大きな規模での共同企画となった。

展示構成や作品については、全4室をそれぞれテーマ分けし、2館の所蔵品からテーマに沿うものを混在させて選定することとした。これにより、意外な相乗効果を発揮する組み合わせや、展示機会の少ない作品の再発見につながる等、自身の館の所蔵品に対する理解が深められるとともに、互いの展示ノウハウも交換しながら作品の新たな展示方法を開拓することができた。今後も様々なテーマを設定することにより、2館の所蔵品の活用がさらに見込めると感じた。

来館者は、2023年度の県美術館企画展では最も多い来館者数を得た。来館者からは、県美術館に陶磁作品が多く並ぶ新鮮さとともに、展示作品の写真撮影・SNS投稿に関しての丁寧な案内も歓迎されており、展示室の入り口に配した陶製狛犬が好評を得るなどの発見もあった。

広報面では、複数の新聞やWEBメディアで取り上げられた。これは有料広告出稿もその一つの要因ではあるものの、当館と比較して、県美術館が常に地元文化記者の注目を受けていること、立地的にも取材も行いやすいことが浮き彫りとなったものと考えられる。

反省点としては、テーマに沿った作成選定の段階で、時間的な制約から作品調査や研究を十分に行えなかったことから、表面的な選定にならざるを得ない部分が出てしまったことがあげられる。また、特にイベント実施については、当初の想定よりも県美術館での制約（複合施設であることや、作品保存、他の教育普及事業との棲み分け）等も多く、当館の強みである陶芸指導員とともに企画する、制作を伴うタイプのものは実施できなかった。今後の県美術館との共同企画を継続するにあたり、課題として引き続き検討したい。

### ③ 能登半島地震に係る被災地支援 珠洲焼公開と募金箱の設置

2024年能登半島地震の被災地支援として、県美術館において、珠洲窯（石川県珠洲市）で鎌倉時代－南北朝時代（14世紀）に作られた珍しい修理痕がある壺を公開した。この壺は、2023度、松浦繁蔵氏から寄贈されたものである。公開に併せ、被災地支援のため、県美術館内に募金箱を設置し、募金を行った。

期 間	2024年2月14日（水）－4月14日（日）
場 所	愛知県美術館ロビー（観覧無料エリア）
募金合計額	76,471円



壺（珠洲窯、鎌倉－南北朝時代（14世紀））、修復痕、展示風景

※本展は2023年度から2024年度にかけて開催された為、展覧会後期の事業の一部は2024年度事業として行われた。

## 5 共催展示

### (1) ギャラリーの貸出し

「瀬戸×常滑 陶芸 ー同じ時をつくるー」

会 期 4月29日(土・祝)ー5月28日(日)  
開催日数 33日間  
会 場 本館1階ギャラリー(第8展示室)  
共 催 瀬戸陶芸協会、常滑陶芸作家協会  
出品件数 67件  
観覧者数 1,716人

#### 関連行事

◇瀬戸×常滑 作家座談会

日 時 5月6日(土)

話し手 〈瀬戸〉太田公典氏、加藤令吉氏、長江重和氏  
〈常滑〉鯉江 廣氏、水上勝夫氏

聞き手 学芸員 入澤聖明

参加者 40人

◇出品作家によるギャラリートーク

日 時 ①5月13日(土)、②5月21日(日)

話し手 出品作家

聞き手 学芸員 入澤聖明

参加者 ①14人、②20人



A4 チラシ

## 6 所蔵資料

資料の収集については、資料委員会開催要領及び収集方針に基づき、資料委員による協議を経て実施している。資料情報については、クラウド型収蔵品管理システム「I. B. MUSEUM SaaS」を用いて管理を行っている。

### (1) 資料収集

収集資料一覧の凡例

- ・資料画像、生産地・制作地・窯・作家、制作時代・年代、点数、寸法（単位はすべてcm）、寄贈者名（寄附資料に限る）、所蔵資料登録番号の順に表記する。
- ・なお生産地・制作地・窯・作家、制作時代・年代が不詳である場合、その項目は詰めている。
- ・2023年度より所蔵資料登録番号の表記方法を「A（半角大文字アルファベット記号）000000（半角6桁）」へ変更した。枝番がある場合には、さらに「-（半角ハイフン）000000（半角6桁）」を加えて表記する。

#### ① 購入資料（7件）

須恵器はじめ計7件を美術品等取得基金により購入した。



須恵器 杯付瓶

古墳時代後期(6世紀後葉～7世紀前葉)

1点  
(全体)幅24.4×14.8  
高11.0(提瓶部)高  
17.9 口径6.0 胴径  
14.8×10.2(杯部)高  
4.0 口径8.2

A007415

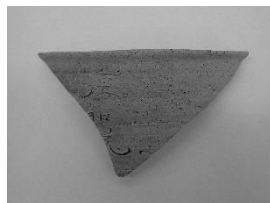


棧敷1号窯跡出土品  
匣片

猿投窯/棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法  
15.5×7.0×3.0 高(残  
存)6.8 口径(復元)  
35.4

A007414-000001

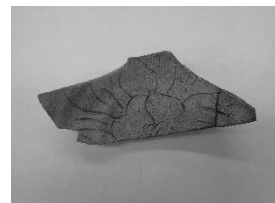


棧敷1号窯跡出土品  
匣片

猿投窯/棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法:  
14.3×8.4×3.3 高(残  
存)8.3 口径(復元)  
23.2

A007414-000002



棧敷1号窯跡出土品  
須恵器 花文蓋片か

猿投窯/棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法:  
11.0×4.3×1.7 高(残  
存)1.6 天井径5.9

A007414-000003



棧敷1号窯跡出土品  
須恵器 無台杯片

猿投窯/棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法:  
9.3×8.8×3.7 高3.7  
口径(復元)12.6 底径  
5.6

A007414-000004



棧敷1号窯跡出土品  
椀片

猿投窯/棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1点(2片)  
現存寸法:  
19.6×16.8×6.2 高  
5.8 口径19.6 底径  
8.9

A007414-000005



棧敷1号窯跡出土品  
灰釉椀片

猿投窯/棧敷1号窯  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法:  
15.2×11.8×3.7 高  
3.9 口径15.3 底径  
7.5

A007414-000006



棧敷1号窯跡出土品  
緑釉陶器 素地 花  
文椀片

猿投窯/棧敷1号窯  
平安時代前期  
(9世紀中葉)

1片  
現存寸法:  
8.4×8.5×1.7 高(残  
存)1.6 底径6.0

A007414-000007



棧敷1号窯跡出土  
品 緑釉陶器 素地  
花文輪花皿片

猿投窯／棧敷1号窯跡  
平安時代前期  
(9世紀中葉)  
1片  
現存寸法:  
13.1×8.2×3.3 高 3.3  
口径(復元)18.3 底径  
(復元)8.1

A007414-000008



須恵器 灰釉長頸瓶

湖西窯  
飛鳥時代後期～奈良  
時代初期(7世紀後葉  
～8世紀前期)

1点  
高 23.5 口径 10.8 胴  
径 16.2 底径 9.9  
A007413



灰釉壺

渥美窯  
平安時代末期  
(12世紀)

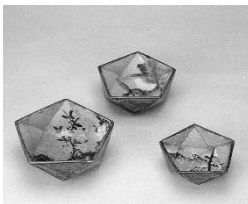
1点  
高 24.0 口径 10.7 胴  
径 20.3 底径 9.8  
A007412



岩絵具加彩秋草図  
蓋物

大喜豊介(三代)／豊  
楽焼  
江戸時代後期 安政6  
年(1859)頃

1点  
高 9.8 口径 13.1 底  
径 7.1  
A007411



鉄絵雪月花図五角  
三組鉢

大喜豊助(四代)／  
大喜豊助(五代)／  
大喜豊助(六代)／  
大喜豊介(三代)／  
豊楽焼

江戸時代後期～明治  
時代初期(19世紀)

3点組  
(大)高 5.2 口径  
15.0×14.7 (中)高  
4.4 口径 13.1×12.6  
(小)高 3.9 口径  
11.6×11.0  
A007410



瀬戸風景 2022

川田知志／  
エクシズ株式会社／  
杉浦製陶株式会社  
2022年

1点  
総高 455.0 幅 1472.0  
A007409

② 寄附資料 (119 件)



須恵器 把手付椀

古墳時代中期  
(5 世紀)  
1 点  
高 7.4 口径 7.0×8.2  
幅 9.4 底径 4.7  
竹田光彦氏寄贈  
A007505



須恵器 壺

古墳時代中期  
(5 世紀)  
1 点  
高 34.9 口径 20.4  
胴径 33.1  
竹田光彦氏寄贈  
A007506



須恵器 提瓶

古墳時代後期  
(6 世紀)  
1 点  
高 22.5 口径 9.4  
胴径 20.3×13.1  
竹田光彦氏寄贈  
A007507



須恵器 壺

(岐阜県各務原市か)  
古墳時代後期～末期  
(6～7 世紀)  
1 点  
高 24.8 口径 17.5  
胴径 31.6  
竹田光彦氏寄贈  
A007508



灰釉碗

猿投窯  
平安時代前期  
(9 世紀)  
1 点  
高 4.4 口径 14.7  
底径 8.1  
竹田光彦氏寄贈  
A007509



灰釉耳皿

猿投窯  
平安時代前期  
(9 世紀)  
1 点  
高 1.4～3.1 口径  
11.4×7.8 底径 5.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007510



灰釉深碗

猿投窯  
平安時代中期～後期  
(10～11 世紀前葉)  
1 点  
高 6.5 口径 16.3  
底径 7.0  
竹田光彦氏寄贈  
A007511



灰釉皿

猿投窯  
平安時代中期～後期  
(10～11 世紀前葉)  
1 点  
高 2.3 口径 10.8  
底径 5.6  
竹田光彦氏寄贈  
A007512



大甕

常滑窯  
平安時代末期  
(12 世紀)  
1 点  
高 65.3 口径 44.8×  
43.3 胴径 65.5×65.0  
底径 13.7  
竹田光彦氏寄贈  
A007514



甕

常滑窯  
平安時代末期  
(12 世紀)  
1 点  
高 22.6 口径 19.3  
胴径 27.6 底径 11.1  
堀内良二氏寄贈  
A007456



椀

東濃窯  
平安時代末期～鎌倉  
時代前期  
(12 世紀後葉～13 世  
紀初頭)  
1 点  
高 5.7 口径 15.0  
底径 7.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007513



片口鉢

常滑窯  
鎌倉時代  
(13 世紀前半)  
1 点  
高 13.8 口径 32.1  
底径 13.9  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007458



**小甕**

常滑窯  
鎌倉時代  
(13世紀後半)  
1点  
高 22.1 口径 18.0  
胴径 25.0 底径 10.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007459



**菊花文小甕**

常滑窯  
鎌倉時代  
(13世紀前半)  
1点  
高 17.6 口径 16.7  
胴径 22.7 底径 13.2  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007460



**片口鉢**

瀬戸窯／藤岡窯  
鎌倉時代  
(13世紀後葉～  
14世紀前葉)  
1点  
高 13.1 口径 28.5  
底径 10.4  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007467



**片口鉢**

瀬戸窯／藤岡窯  
鎌倉時代  
(13世紀後葉～  
14世紀前葉)  
1点  
高 13.1 口径 29.5  
底径 10.8  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007468



**灰釉瓶子**

瀬戸窯  
鎌倉時代  
(13世紀前半)  
1点  
高 26.8 口径 5.4  
胴径 16.7 底径 10.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007515



**「東大寺大佛殿瓦」  
軒平瓦**

伊良湖東大寺瓦窯跡  
渥美窯  
鎌倉時代前期  
(13世紀)  
1点  
瓦当幅(残存)33.9  
瓦当高(残存)5.2  
全長(残存)10.0  
岡部治徳氏寄贈  
A007457



**壺**

珠洲窯  
鎌倉時代～南北朝時  
代(14世紀)  
1点  
高 31.4 口径 12.4  
胴径 28.7 底径 10.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007464



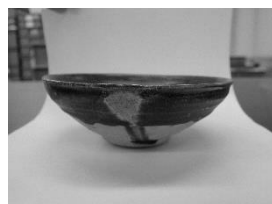
**灰釉小平碗**

瀬戸窯  
南北朝時代  
(14世紀前半)  
1点  
高 4.8 口径 11.4  
底径 3.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007470



**片口鉢**

信楽窯  
南北朝時代  
(14世紀中葉～後葉)  
1点  
高 8.1 口径 20.5  
底径 10.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007462



**天目**

瀬戸窯  
南北朝時代  
(14世紀後半)  
1点  
高 4.6 口径 12.8  
底径 5.0  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007475



**小天目**

瀬戸窯  
南北朝時代  
(14世紀後半)  
1点  
高 4.4 口径 9.0  
底径 3.4  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007476



**壺**

信楽窯  
南北朝時代  
(14世紀後半)  
1点  
高 27.4 口径 11.2  
胴径 24.4 底径 11.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007463



**壺**

信楽窯  
南北朝時代  
(14世紀後半)  
1点  
高 38.7 口径 14.2 胴  
径 34.6 底径 16.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007516



**鉄釉小杯**

瀬戸窯  
室町時代  
(15世紀前半)  
1点  
高 1.5 口径 4.3 底径  
2.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007471



**鉄釉小杯**

瀬戸窯  
室町時代  
(15世紀前半)  
1点  
高 1.9 口径 5.0 底径  
2.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007472



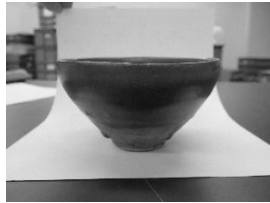
**鉄釉小杯**

瀬戸窯  
室町時代  
(15世紀前半)  
1点  
高 1.9 口径 5.1 底径  
2.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007473



**刻文小甕**

常滑窯  
室町時代  
(15世紀前半)  
1点  
高 15.9 口径  
15.9×17.0 胴径 19.7  
底径 10.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007461



**天目**

瀬戸窯  
室町時代  
(15世紀中葉)  
1点  
高 6.9 口径 11.8  
底径 4.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007477



**鉄釉広口四耳壺**

瀬戸窯  
室町時代  
(15世紀中葉)  
1点  
高 17.1 口径 12.7  
胴径 16.7 底径 8.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007469



**天目**

瀬戸窯／美濃窯  
室町時代(15世紀末)  
1点  
高 7.1 口径 12.8  
底径 4.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007478



**刻文広口壺**

越前窯  
室町時代(15世紀末  
～16世紀前葉)  
1点  
高 28.2 口径 18.8 幅  
28.3 底径 15.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007465



**天目**

瀬戸窯／美濃窯  
室町時代  
(16世紀前半)  
1点  
高 6.3 口径 12.1 底  
径 4.2  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007479



**鉄釉平碗**

瀬戸窯／美濃窯  
室町時代  
(16世紀前葉)  
1点  
高 5.4 口径 16.1 底  
径 4.6  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007474



**錆釉(赤土)刻文小壺**

越前窯  
室町時代  
(16世紀前葉～中葉)  
1点  
高 17.5 口径 9.8 胴  
径 17.4 底径 12.0  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007466



**刻文壺**

丹波窯  
室町時代(16世紀)  
1点  
高 41.7 口径 12.5  
胴径 33.5 底径 16.2  
竹田光彦氏寄贈  
A007517



**鉄絵草文鉢**

瀬戸窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 6.1 口径 29.8  
底径 18.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007486



**鉄釉灰釉流し天目**

美濃窯／大川東窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 8.3 口径 11.6  
底径 4.8  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007481



**鉄釉灰釉流し天目**

美濃窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 7.4 口径 11.7  
底径 4.9  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007482



**鉄釉灰釉流し天目**

美濃窯／大川東窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 8.6 口径 11.9  
底径 4.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007483



**長石釉天目**

瀬戸窯／美濃窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 6.1 口径 11.7  
底径 4.0  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007480



**鉄釉灰釉流し丸碗**

美濃窯  
江戸時代前期  
(17世紀前半)  
1点  
高 7.7 口径 10.9  
底径 5.2  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007485



**天目**

瀬戸窯／美濃窯  
江戸時代  
(17世紀中葉～後葉)  
1点  
高 7.0 口径 14.2  
底径 4.9  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007484



**鉄釉灰釉流し四耳壺**

美濃窯／大川東窯  
江戸時代前期  
(17世紀)  
1点  
高 33.7 口径 10.8  
胴径 28.0 底径 13.0  
竹田光彦氏寄贈  
A007518



**鉄絵草花文鉢**

瀬戸窯／美濃窯  
江戸時代前期  
(17世紀)  
1点  
高 13.0 口径 37.6  
底径 13.5  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007487



**緑釉敷瓦**

瀬戸窯  
江戸時代前期  
(17世紀)  
1点  
幅 26.8×26.8 下場  
25.7×25.8 厚 3.4  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007488



**拳骨茶碗**

美濃窯  
江戸時代中期  
(18世紀中葉)  
1点  
高 7.7 口径 11.7  
底径 5.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007489



**拳骨茶碗**

美濃窯  
江戸時代中期  
(18世紀中葉)  
1点  
高 7.1 口径 11.4  
底径 6.0  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007490



**鎧手碗**

美濃窯  
江戸時代中期  
(18世紀後葉)  
1点  
高 8.0 口径 10.9  
幅 11.5 底径 4.6  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007497



**鎧手碗**

美濃窯  
江戸時代中期  
(18世紀後葉)  
1点  
高 7.7 口径 12.1  
幅 12.6 底径 5.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007498



**鉄釉灰釉掛分け碗**

美濃窯  
江戸時代中期  
(18世紀後葉)  
1点  
高 7.8 口径 11.1  
幅 11.9 底径 4.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007499



**拳骨茶碗**

瀬戸窯／美濃窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀中葉～19世紀)  
1点  
高 6.4 口径 10.7  
幅 11.0 底径 4.7  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007491



**刷毛目碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀)  
1点  
高 6.3 口径 13.5  
底径 4.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007492



**刷毛目碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀)  
1点  
高 5.9 口径 14.2  
底径 5.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007493



**刷毛目碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀)  
1点  
高 5.4 口径 13.5  
底径 4.9  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007494



**刷毛目碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀)  
1点  
高 6.5 口径 13.4  
底径 4.2  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007495



**刷毛目碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀)  
1点  
高 6.0 口径 13.5  
底径 4.9  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007496



**鉄釉鎧手碗**

瀬戸窯  
江戸時代中期～後期  
(18世紀後葉～19世紀前半)  
1点  
高 5.6 口径 8.3  
幅 8.5 底径 3.8  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007500



**掛分け鎧手碗**

瀬戸窯  
江戸時代後期  
(19世紀前葉)  
1点  
高 5.9 口径 12.8  
底径 4.2  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007501



### 緑釉碗

瀬戸窯  
江戸時代後期  
(19世紀前半)  
1点  
高 6.0 口径 12.0  
底径 4.4  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007502



### 柳茶碗

瀬戸窯  
江戸時代後期  
(19世紀)  
1点  
高 5.5 口径 12.2  
底径 4.3  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007503



### 柳茶碗

美濃窯  
江戸時代後期  
(19世紀)  
1点  
高 6.4 口径 12.4  
底径 4.8  
松浦繁蔵氏寄贈  
A007504



### 瑠璃地金彩鶉図瓶

瓢池園／泉梅一  
明治 11 年(1878)  
1点  
高 33.0 口径 12.5  
胴径 15.8 底径 9.2  
竹田光彦氏寄贈  
A007519



### 金彩龍鳳文耳付瓶

横井惣助  
明治時代(19世紀)  
1点  
高 36.8 口径 12.1  
胴径 15.5 底径 10.0  
竹田光彦氏寄贈  
A007520



### 色絵金彩バラ模様カップ&ソーサー

素地:岐阜県・多治見市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 24~29  
(1949~1953)  
1点  
(カップ)高 4.8 口径  
9.6 幅 12.3 底径 4.5  
(ソーサー)高 2.2 口径  
14.7 底径 8.7  
遠藤武夫氏寄贈  
A007439



### 色絵紅葉文ティーセット

絵付け:愛知県・名古屋市、  
素地:岐阜県・多治見市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 24~30 年代  
(1949~1964)  
10点組(ティーポット1、  
カップ&ソーサー7セット、  
シュガーポット1、  
クリーマー1)  
(カップ)高 5.6 幅 11.7  
(ソーサー)高 2.7 口径 14.0  
(ティーポット)高 17.7 幅 23.5  
(シュガーポット)高 11.3 幅 16.6  
(クリーマー)高 9.2 幅 11.6  
遠藤武夫氏寄贈  
A007440



### 色絵マロン金彩風景文カップ&ソーサー

素地:岐阜県・多治見市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 24~30 年代  
(1949~1964)  
1点  
(カップ)高 8.2 口径  
7.5×6.8 底径 3.5  
(ソーサー)高 2.3  
口径 14.5 底径 3.5  
遠藤武夫氏寄贈  
A007448



### マロン金盛帯人物文 ピッチャーボウル

(ピッチャー)素地:愛知県・  
瀬戸市/絵付:愛知県・  
名古屋市(受皿)生地:  
岐阜県・美濃市/絵付:  
愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 30~40 年代  
(1955~1974)  
1組  
(ピッチャー)高 15.0  
幅 15.5 底径 8.0  
(受皿)高 4.1 口径  
23.2 底径 12.7  
遠藤武夫氏寄贈  
A007441



### マロン金盛妖精文 ティーポット、シュガー ポット

素地:愛知県・瀬戸市/  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 30~40 年代  
(1955~1974 年)  
2点組  
(ポット)21.2 幅 21.0  
奥行 9.1 底径 9.3  
(シュガーポット)高 7.8  
口径 7.5×6.0 幅 14.3  
奥行 7.5 口径 6.8×  
5.6  
遠藤武夫氏寄贈  
A007442



### マロン金盛帯人物文 カップ&ソーサー

素地:岐阜県・美濃市、  
愛知県・瀬戸市/絵付:  
愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 30~40 年代  
(1955~1974)  
1組  
(カップ)高 7.3 口径  
5.4 幅 7.8 底径 3.8  
(ソーサー)高 1.6  
口径 11.5 底径 6.3  
遠藤武夫氏寄贈  
A007443



### マロン金盛帯人物文 カップ&ソーサー

素地:岐阜県・美濃市、  
愛知県・瀬戸市/絵付:  
愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和 30~40 年代  
(1955~1974)  
1組  
(カップ)高 7.8 口径  
6.0 幅 8.0 底径 3.6  
(ソーサー)高 1.9  
口径 12.6 底径 7.2  
遠藤武夫氏寄贈  
A007444



**金盛カップ(黒、瑠璃、緑)**

素地:岐阜県・多治見市、愛知県・瀬戸市/絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和30~40年代  
(1955~1974)  
3点組  
(黒)高7.0 幅7.3  
(瑠璃)高7.0 幅7.3  
(緑)高7.0 幅7.1  
遠藤武夫氏寄贈  
A007447



**マロン金盛帯人物文  
カップ&ソーサー**

素地:岐阜県・多治見市、愛知県・瀬戸市/絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和30~40年代  
(1955~1974)  
1組  
(カップ)高11.9 口径5.2 幅12.3 底径4.9  
(ソーサー)高1.2 口径14.3 底径8.0  
遠藤武夫氏寄贈  
A007445



**マロン金盛帯妖精文  
キャンディーボックス**

素地:岐阜県・多治見市、愛知県・瀬戸市/絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和30~40年代  
(1955~1974)  
1点  
高12.3 口径13.5 底径7.1  
遠藤武夫氏寄贈  
A007446



**ノベルティ 日本人形**

テーカー名古屋人形製陶株式会社  
1960年代  
1点  
高27.8 幅13.3 奥行8.7  
加藤勇夫氏寄贈  
A007453



**ノベルティ ヨーロッパゴシキヒワ**

光和陶器株式会社/大東三進株式会社  
1979年  
1点  
高16.4 幅19.1 奥行11.4  
加藤勇夫氏寄贈  
A007454



**色絵金彩バラ模様コーヒーポット、カップ&ソーサー**

(ポット)素地:愛知県・瀬戸市、絵付:愛知県・名古屋市/  
(カップ&ソーサー)素地:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和50年代(1975~1984)  
2点組  
(コーヒーポット)高22.5 幅23.2  
(カップ)高6.9 幅9.6  
(ソーサー)高2.5 口径14.1  
遠藤武夫氏寄贈  
A007449



**色絵金彩草花散らしティーセット**

ポット、シュガーポット、クリーマー:愛知県・瀬戸市、カップ、ソーサー:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
昭和50年代(1975~1984)  
5点組  
(コーヒーポット)高13.8 幅17.8  
(ティーポット)高9.8 幅14.7  
(シュガーポット)高8.8 幅12.3  
(カップ)高6.6 幅9.6  
(ソーサー)高2.2 口径14.2  
(クリーマー)高8.3 幅9.9  
遠藤武夫氏寄贈  
A007450



**アニバーサリープレート<色絵金彩バラのアニバーサリープレート>**

素地:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代  
1点  
高2.4 口径14.2 底径8.4  
遠藤武夫氏寄贈  
A007451-000001



**アニバーサリープレート<プラチナ彩バラの25周年アニバーサリープレート>**

素地:岐阜県・多治見市、素地:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代  
1点  
高2.3 口径26.3 底径16.0  
遠藤武夫氏寄贈  
A007451-000002



**色絵金彩バラの40周年アニバーサリープレート**

素地:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代  
1点  
高2.4 口径26.4 底径15.7  
遠藤武夫氏寄贈  
A007451-000003



**赤ラスター金彩40周年アニバーサリープレート**

素地:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代  
1点  
高2.4 口径26.2 底径16.0  
遠藤武夫氏寄贈  
A007451-000004



**金彩バラの50周年アニバーサリープレート**

素地:岐阜県・多治見市、絵付:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代  
1点  
高2.5 口径25.8 底径15.2  
遠藤武夫氏寄贈  
A007451-000005



白ラスター金彩 60周年  
アニバーサリープレート

素地:岐阜県・多治見市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代

1点  
高 2.3 口径 26.4 底径 16.0  
遠藤武夫氏寄贈

A007451-000006



シェルケース テンシ  
ノツバサガイ

素地:愛知県・瀬戸市  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1980年代

1点  
高 4.9 幅 12.9 奥行 5.0  
遠藤武夫氏寄贈

A007452-000001



色絵シェルケース  
Venus Clam

素地:愛知県・瀬戸市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1988年

1点  
高 4.6 幅 11.1 奥行 6.8  
遠藤武夫氏寄贈

A007452-000002



色絵シェルケース  
StrawberryTop  
(イチゴナツモモガイ)

素地:愛知県・瀬戸市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1988年

1点  
高 5.2 幅 7.6 奥行 6.8  
遠藤武夫氏寄贈

A007452-000003



色絵シェルケース  
PurpleSnail  
(アサガオガイ)

素地:愛知県・瀬戸市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1988年

1点  
高 5.6 幅 7.7 奥行 6.4  
遠藤武夫氏寄贈

A007452-000004



色絵シェルケース  
Crown Whelk

素地:愛知県・瀬戸市、  
絵付け:愛知県・名古屋市  
遠藤陶器株式会社  
1989年

1点  
高 5.8 幅 12.0 奥行 6.7  
遠藤武夫氏寄贈

A007452-000005



ノベルティ バラのオルゴール  
(Melodious Rose)

愛知県・瀬戸市または尾張旭市  
加藤工芸株式会社/光和陶器株式会社  
1980年代

2点  
高 10.5 口径 16.8 奥行 16.5  
加藤勇夫氏寄贈

A007455



青磁獅子鈕香炉  
(作品名不詳)

楠部彌弍  
1940-50年代  
1点  
総高 18.2 幅 16.3 底径 11.0  
楠部敦子氏寄贈

A007416



「白釉」花瓶  
(作品名不詳)

楠部彌弍  
1960年代

1点  
高 50.0 口径 12.3 胴径 16.0 幅 34.5  
楠部敦子氏寄贈

A007417



金彩松文花瓶  
(作品名不詳)

楠部彌弍  
1960年代

1点  
高 43.0 口径 36.5 底径 17.0  
楠部敦子氏寄贈

A007418



「緑釉」花瓶  
(作品名不詳)

楠部彌弍  
1960年代

1点  
高 27.0 口径 12.7 胴径 26.5 底径 14.5  
楠部敦子氏寄贈

A007419



早蕨釉力花瓶

楠部彌弍  
1963年

1点  
高 41.0 幅 22.5 底径 16.7  
楠部敦子氏寄贈

A007420



**塔花瓶**

楠部彌弼  
1965年  
1点  
高 38.5 幅 21.0  
底径 11.0  
楠部敦子氏寄贈  
A007421



**作品(作品名不詳)**

坪井明日香  
1971-72年頃  
1点  
高 43.0 幅 48.0  
厚 57.5  
坪井良之氏寄贈  
A007422



**京都地図皿**

坪井明日香  
1977年頃  
1点  
長 41.0 幅 42.0  
厚 11.0  
坪井良之氏寄贈  
A007423



**唐織袋**

坪井明日香  
1981年  
1点  
高 52.0 幅 46.0  
胴径 38.0  
坪井良之氏寄贈  
A007424



**くきの笛**

坪井明日香  
1982年  
1点  
高 14.0 幅 57.0  
胴径 50.0  
坪井良之氏寄贈  
A007425



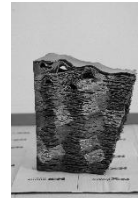
**西域の道**

坪井明日香  
1983年  
1点  
高 41.0 口径 57.0  
胴径 13.0  
坪井良之氏寄贈  
A007426



**京都図鑑 人物風姿**

坪井明日香  
1987年頃  
1点  
高 56.0 幅 36.0  
厚 23.0  
坪井良之氏寄贈  
A007427



**古代裂シリーズ  
残片**

坪井明日香  
1992年  
1点  
高 48.0 幅 40.0  
厚 15.0  
坪井良之氏寄贈  
A007428



**私小説**

坪井明日香  
1997年  
1点  
高 35.0 幅 66.0  
厚 27.0  
坪井良之氏寄贈  
A007429



**京町並紋 上り坂**

坪井明日香  
2004年頃  
1点  
総高 12.0 幅 15.5  
厚 16.5  
坪井良之氏寄贈  
A007430



**水中の環**

坪井明日香  
2010年  
1点  
総高 110.0 幅 115.0  
厚 10.0  
坪井良之氏寄贈  
A007431



**輪廻…うつせみ…**

坪井明日香  
2010年  
4点  
高 90.0 幅 360.0  
厚 8.5  
坪井良之氏寄贈  
A007432



**茶碗**

坪井明日香  
2015年頃  
1点  
高7.0 口径13.5 胴  
径5.0  
坪井良之氏寄贈  
A007433



**茶碗**

坪井明日香  
2015年頃  
1点  
高9.5 口径13.5 底  
径5.0  
坪井良之氏寄贈  
A007434



**陶管**

坪井明日香  
2015年頃  
1点  
総高13.5 幅19.0 厚  
さ14.0  
坪井良之氏寄贈  
A007435



**コンテンポラリーの女**

坪井明日香  
2016年  
1点  
高45.0 幅36.0 厚  
35.0  
坪井良之氏寄贈  
A007436



**雲のひきだし**

坪井明日香  
2021年  
1点  
高21.0 幅29.0 厚  
24.0  
坪井良之氏寄贈  
A007437



**瀬戸黒茶鉢**

加藤孝造  
2022年  
1点  
高11.4  
口径11.5x10.5  
幅12.0x11.5  
加藤孝造氏寄贈  
A007438



**青白磁日月壺**

江西省  
南宋～元時代(12～13  
世紀)  
1点  
総高62.5 高51.0  
口径8.5 胴径12.6  
底径10.2  
竹田光彦氏寄贈  
A007521



**青磁刻花魚亀文鉢**

陝西省  
耀州窯  
金～元時代(12～13  
世紀)  
1点  
高6.2 口径18.6 厚  
0.3 底径4.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007522



**青磁蓮弁文碗**

浙江省  
龍泉窯  
南宋時代(13世紀)  
1点  
高6.7 口径15.2 胴  
径4.4 厚0.4  
竹田光彦氏寄贈  
A007523



**青磁刻花蓮花文盤**

浙江省  
龍泉窯  
元～明時代初期(13～  
14世紀)  
1点  
高9.0 口径35.0 底  
径13.0 厚0.8  
竹田光彦氏寄贈  
A007524



**青花芙蓉手盤**

江西省  
景德鎮窯  
明時代(16～17世紀)  
1点  
高3.0 口径20.0 底  
径12.0  
竹田光彦氏寄贈  
A007525



**青白磁暗花双龍文碗**

江西省  
景德鎮窯  
清時代(18～19世紀)  
1点  
高5.6 口径13.2 底  
径5.0  
竹田光彦氏寄贈  
A007526



**陶質土器 広口小壺**

加耶(金官加耶)  
三国時代(4世紀)  
1点  
高 7.8 口径 7.4 胴径  
7.6 底径 4.2  
高橋尚孝氏寄贈  
A007528



**陶質土器 有蓋高杯**

新羅  
三国時代(5世紀)  
1点  
(蓋)高 5.8 口径 11.5  
幅 12.0 鈕径 3.8  
(身)高 10.3 口径  
10.0 幅 11.8 脚径  
8.4  
高橋尚孝氏寄贈  
A007529



**陶質土器 波状文台付壺**

新羅  
三国時代(5世紀)  
1点  
高 37.8 口径 17.3 胴  
径 33.4 脚径 21.0  
高橋尚孝氏寄贈  
A007530



**陶質土器 波状文双耳壺**

加耶ないし新羅  
三国時代(5~6世紀)  
1点  
高 18.2 口径  
13.0×11.8 胴径 15.4  
幅 18.8 底径 7.3  
高橋尚孝氏寄贈  
A007531



**陶質土器 壺**

百濟または新羅  
三国時代(5~6世紀)  
1点  
高 10.5 口径 8.5 胴  
径 13.6 底径 7.8  
高橋尚孝氏寄贈  
A007532



**陶質土器 平底瓶**

百濟  
三国時代(5~6世紀)  
1点  
高 14.4 口径 7.6 胴  
径 17.5 底径 10.8  
高橋尚孝氏寄贈  
A007533



**波状文長頸壺**

加耶(大加耶)系  
三国時代(6世紀)  
1点  
高 17.9 口径 10.4 胴  
径 13.8 底径 4.6  
高橋尚孝氏寄贈  
A007534



**青磁印花黄蜀葵文  
輪花鉢**

高麗時代(12世紀)  
1点  
高 7.2 口径 20.5 底  
径 5.8 厚 0.3  
竹田光彦氏寄贈  
A007527

③ 資料収集状況及び計画

(2024年3月31日現在)

区 分		既収集資料点数			収 集 計 画
		総点数	購入点数	受贈点数	
日 本 陶 磁	縄 文 時 代	63	49	14	縄文時代6期の各期の特徴的な資料及び造形的に優れた名品。
	弥 生 時 代	25	20	5	弥生時代前期・中期・後期を代表する資料及びパレススタイルの土器群。
	古 墳 時 代	105	79	26	土師器・埴輪及び須恵器。
	奈 良 時 代	103	68	35	土師器・須恵器・奈良三彩及び瓦。
	平安時代前期～後期	91	37	54	猿投窯をはじめとする各地の須恵器・青瓷・白瓷。
	平安時代末期～ 鎌倉・室町時代	543	284	259	渥美・常滑・瀬戸・珠洲・越前・信楽・丹波・備前等の中世窯製品。
	桃 山 時 代	121	80	41	瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部・伊賀・備前・唐津等の茶陶類。
	江 戸 時 代	1,196	386	810	瀬戸・美濃・常滑・萬古や名古屋等の東海地方の諸窯。有田等の肥前陶磁、仁清・乾山等の京焼をはじめとする日本各地の製品。
	近 現 代 陶 磁	1,428	127	1,301	近代陶芸の基礎を築いた明治期の名工たちの作品。現代陶芸作家の作品及び著名公募展優秀作品。
	近現代産業陶磁	1,388	131	1,257	明治期の輸出陶磁器類及び窯業の近代化を物語る資料。ファインセラミックス及び現代陶磁器産業の製品。
	小 計	5,063	1,261	3,802	
外 国 陶 磁	中 国 陶 磁	886	62	824	日本の陶磁器の源流である中国・朝鮮半島の陶磁器及び世界各地の資料。
	韓国・東南アジア陶磁	295	53	242	
	中 近 東 陶 磁	196	19	177	
	ヨーロッパ陶磁	93	6	87	
	その他の外国陶磁	759	0	759	
	近 現 代 陶 磁	68	41	27	
	近現代産業陶磁	166	48	118	
	小 計	2,463	229	2,234	
関 連 資 料	910	12	898	ガラス・七宝などの窯業製品及び制作工程の資料や民俗資料。	
内 2023 年度収集資料点数	126	7	119	内所蔵陶磁資料・学芸課管理番号 A-7409～A-7534	
合 計	8,436	1,502	6,934		

※「鎌倉・室町時代」の受贈点数には、国から譲渡された埋蔵文化財 50 点を含む。

※「近現代陶磁」及び「近現代産業陶磁」の受領点数には、本県会計局(前出納事務局)から区分替えされた資料 8 点を含む。

※近現代陶磁の受贈点数は、貸出中における亡失(2005年3月)のため、1点少なくなっている。

#### ④ 所蔵指定文化財

指定区分/種別	指定名称	員数	指定年月日	収集区分/年度
国・重要文化財/工芸品	猿投灰釉多口瓶	1口	1975.6.12	寄贈 1993年度
国・重要文化財/工芸品	渥美灰釉芦鷺文三耳壺	1口	1976.6.5	寄贈 1979年度
国・重要文化財/工芸品	陶製五輪塔 久安二年の刻銘がある	1基	1995.6.15	購入 1991年度
国・重要美術品/工芸品 愛知県指定文化財/工芸品	鉄釉巴文瓶子	1口	1935.5.10 1984.2.27	購入 1978年度
愛知県指定文化財/工芸品	陶製牡丹文経筒外容器	1口	1984.2.27	購入 1974年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉短頸壺	1口	1984.2.27	購入 1978年度
愛知県指定文化財/考古資料	猿投灰釉短頸壺及び平瓶	各1口	1984.2.27	寄贈 1981年度
愛知県指定文化財/有形民俗文化財	陶製狛犬コレクション	210 駆	1984.3.30	寄贈・購入 1976他
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉手付長頸瓶	1口	2021.8.6	寄贈 2019年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉長頸瓶	1口	2021.8.6	購入 2008年度



猿投灰釉多口瓶



渥美灰釉芦鷺文三耳壺



陶製五輪塔 (久安二年刻銘)

#### ⑤ 愛知用水関連資料および南山8-9号窯資料

資料名称	内 訳	数 量	概 要
愛知用水関連資料 一括	完形資料	118件119点	1955年から1962年にかけて、愛知用水建設に関連して、愛知県教育委員会が名古屋大学に委託して発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	重要陶片資料	33件190点	
	一般陶片資料	99件5,455箱	
南山8・9号窯資料 一括	重要陶片資料	134点	1991年に、当館大駐車場の造成工事に関連して、当館が発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	一般陶片資料	257箱	

#### ⑥ 図書室

陶磁史、考古学、展覧会図録を中心とする図書等を所蔵。学芸員等の調査研究のために利用すると共に、研究を目的とする希望者に長期休館前まで一般開放を行った。

図書資料 収集状況

2023年度	購入図書	寄 贈 図 書		合 計
		寄付受入	交換図書他	
冊 数	0冊	0冊	850冊	850冊
累 計	1,849冊	11,721冊	52,121冊	65,691冊

(2) 資料活用 他館展覧会等への作品貸与

No.	貸出期間	資料名称	備品 No	点数	借用者	展覧会等の名称
1	4. 1－ 5. 31、 10. 11－ 2024. 3. 31	灰釉平碗	A001529	8 点	愛知県政策 企画局	愛知県知事公館内 で展示  ※知事公館の修繕 のため、いったん 返却ののち再貸出 し
2		染付孔雀牡丹文鉢	A000974			
3		紅白梅茶碗	A000031			
4		志野平水指	A002728			
5		双耳瓶子	A001526			
6		織部写茶碗	A000828			
7		赤絵帆船図皿	A002519			
8		志野鶴の絵茶碗	A000015			
9		鈴木貴洋「昔のでんわ」	A005314			
10	4. 1－ 2024. 3. 31	天目茶碗	A001767	7 点	愛知県議会 事務局	愛知県議長室内で 展示
11		御深井陰刻牡丹唐草文角 形香炉	A001351			
12		赤絵魚藻文鉢	A002537			
13		染付丸文牛図火入	A003465			
14		絵志野平茶碗	A000005			
15		黄瀬戸茶碗	A000019			
16		朱泥茶注	A005435			
17	4. 1－ 2024. 3. 31	天目茶碗	愛知用水 関連資料	27 点	瀬戸市	常設展「瀬戸焼の 歩み」（於 瀬戸 蔵ミュージアム）
18		平底末広碗				
19		折縁小皿				
20		底卸目皿				
21		折縁深皿				
22		袴腰香炉				
23		筒型香炉				
24		柄付片口				
25		仏供				
26		長頸水注				
27		片口水瓶				
28		四耳壺				
29		梅瓶				
30		杯 B（有高台）				
31		はそう				
32		はそう				
33		平瓶				
34		椀				
35		小型椀				
36		深椀				
37		皿				
38		折縁皿				
39		長頸瓶				
40		広口瓶				

41		高杯				
42		大型壺				
43		片口鉢				
44	4.1－ 2024.3. 31	青瓷素地 椀蓋	愛知用水 関連資料	12点	みよし市歴史 民俗資料館	常設展「みよしの 古窯」
45		青瓷素地 大椀				
46		青瓷素地 中椀				
47		青瓷素地 皿				
48		青瓷素地 皿				
49		青瓷素地 輪花広縁段皿				
50		青瓷素地 高盤				
51		青瓷素地 手付瓶				
52		青瓷素地 四足壺				
53		青瓷素地 大型突帯鉢				
54		青瓷素地 陶枕				
55		白瓷 大椀				
56	4.1－ 2024.3. 31	井ヶ谷67号窯出土資料一括 (IG-67)	愛知用水 関連資料	4点	刈谷市歴史 博物館	企画展「井ヶ谷古 窯展－いにしへの 刈谷のものづくり －」
57		井ヶ谷78号窯出土資料一括 (IG-78)				
58		須恵器 高盤				
59		須恵器 陶馬片	愛知県陶磁 美術館保管			
60	5.2－ 2024.3. 31	染錦草花文八角ディナー セット	Y000455- 000946	16点	三重県立美 術館	企画展「日根野作 三展」
61		ケーキ皿	Y000455- 001047			
62		角形肉皿	Y000455- 001176			
63		染付シュガーポット	Y000455- 001546			
64		粟田焼上絵付花瓶	Y000455- 001579			
65		灰皿	Y000455- 002215			
66		燭台	Y000455- 002234			
67		伊賀手灰皿	Y000455- 002274			
68		染錦小紋地草花文長方皿 (図案)	Y000455- 002671			
69		染錦小紋地草花文グレイバー (図案)	Y000455- 002677			
70		淡黄マット彩色銀彩燭台 兼灰皿 (図案)	Y000455- 002755			
71		彩色人魚灰皿 (図案)	Y000455- 002756			
72		野鹿皿形壁飾り (図案)	Y000455- 002761			
73	動物壁飾り (図案)	Y000455- 002762				

74		上絵草花文パン皿 (図案)	Y000455-003027			
75		花文サービス皿 (図案)	Y000455-003028			
76	11. 6－ 12. 15	建蓋	A002752	5 点	公益財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展「時代をつなぐ碗の世界」 (於 長久手郷土資料室)
77		青磁櫛目文碗	A002740			
78		青磁蓮弁文碗	A002744			
79		青磁碗	Y000574			
80		灰釉碗 黒笹 14 号窯出土資料	愛知用水関連資料			
81	5. 15－ 9. 30	ミルク入	Y000455-000097	36 点	愛知県美術館	企画展「幻の愛知県博物館」
82		シュガーボックス	Y000455-000099			
83		水注	Y000455-000106			
84		金属蓋付ジョッキ	Y000455-000113			
85		釉彩鉢	Y000455-000118			
86		エッグセット	Y000455-000121			
87		釉彩浅型鉢	Y000455-000124			
88		釉彩蓋物	Y000455-000126			
89		釉彩花瓶	Y000455-000176			
90		インクスタンド	Y000455-000180			
91		鹿装飾燭台	Y000455-000191			
92		花瓶	Y000455-000195			
93		菓子器	Y000455-000241			
94		マット釉容器	Y000455-000243			
95		緑釉蓋付容器	Y000455-000244			
96		筒形容器	Y000455-000245			
97		灰皿	Y000455-000246			
98		角蓋物	Y000455-000247			
99		植木鉢カバー	Y000455-000250			
100		灰皿	Y000455-000259			
101	菓子器	Y000455-000262				
102	ケーキ皿・各種	Y000455-001063				

103		ホウボウ置物	Y000455-001637			
104		蛸置物	Y000455-001660			
105		燭台	Y000455-001677			
106		平野耕輔像	Y000455-001771			
107		白雲陶器花器	Y000455-001929			
108		葉巻入	Y000455-002204			
109		替栓	Y000455-002214			
110		灰皿	Y000455-002233			
111		燭台	Y000455-002236			
112		染錦小紋地草花文盛寄皿 右 (図案)	Y000455-002673			
113		童子燭台 (図案)	Y000455-002826			
114		象嵌釉彩枇杷絵小箱 (図案)	Y000455-002828			
115		象嵌釉彩枇杷絵小箱 (図案)	Y000455-002829			
116	6. 20－	禁煙 (禁煙の名人)	A006913	3 点	京都国立近代美術館、岐阜県美術館、岡 山県立美術 館、菊池寛実 記念智美術館	巡回展「走泥社再 考－前衛陶芸が 生まれた時代」
117	9. 30	碑	A002455			
118		球体のある花生	A006135			
119	12. 28－	吊手付土器	A000169	64 点	愛知県美術館	企画展「コレクシ ョンズ・ラリー ー愛知県美術館・ 愛知県陶磁美術館 共同企画」
120	2024. 7.	深鉢	A000189			
121	31	双耳深鉢	A000192			
122		注口土器	A000352			
123		香炉形土器	A000355			
124		円筒深鉢	A001222			
125		土偶	A001609			
126		朱彩浅鉢	A001669			
127		深鉢	A002679			
128		深鉢	A003272			
129		軒丸瓦・軒平瓦	A001491			
130		双耳壺	A000409			
131		灰釉短頸壺	A000888			
132		突帯刻文壺	A001427			
133		水瓶	A001944			
134		灰釉多口瓶	A002287			
135		灰釉浄瓶	A002293			
136		五輪塔	A000969			

137	鉄釉小壺	A000998			
138	鉄釉印花文環耳花瓶	A001225			
139	灰釉櫛目文水瓶	A001281			
140	仏像鈕蓋付経筒外容器	A001333			
141	灰釉四耳壺	A001520			
142	灰釉草花文四耳壺	A001533			
143	甕	A001737			
144	軒丸瓦・軒平瓦	A001773			
145	五輪塔形経筒外容器	A002241			
146	千条文播座茶入	A002660			
147	天目茶碗	A003273			
148	建盞	A003150			
149	黄釉鉄絵蓮花文洗	A001738			
150	鬼面瓦	A004918			
151	茶碗	A005809			
152	置物	A001206			
153	人形	A001220			
154	原爆の証言	A002319			
155	陶による岩の群	A002412			
156	日本趣味解題・鳴キノボ ルハ内面構図	A002415			
157	聖衣	A002630			
158	98-H-1	A003051			
159	Package	A005392			
160	花器	A000465			
161	テラ	A002403			
162	卵形の鉢	A002452			
163	ジャボ	A002501			
164	鉄釉狛犬 阿	A000493			
165	鉄釉狛犬 吽	A000494			
166	鉄釉狛犬 阿	A000510			
167	鉄釉狛犬 吽	A000511			
168	御深井釉鉄釉狛犬 阿	A000527			
169	御深井釉鉄釉狛犬 吽	A000528			
170	御深井釉鉄斑狛犬 阿	A000551			
171	御深井釉鉄斑狛犬 吽	A000552			
172	御深井釉狛犬 阿	A000608			
173	御深井釉狛犬 吽	A000609			
174	鉄釉狛犬 阿	A000644			
175	鉄釉狛犬 吽	A000645			
176	御深井釉狛犬 阿	A003871			
177	御深井釉狛犬 吽	A003872			
178	ツチ・ビト一輪一	A007404			

179		染付鉢「酔芙蓉」	A007405			
180		御深井釉鉄斑狛犬 阿	A000513			
181		御深井釉鉄斑狛犬 吽	A000514			
182		日本趣味解題 華麗ニシテ虚言	A002413			
183	2024. 2. 1 3-4. 30	壺 珠洲焼	A007464	1 点	愛知県美術館	2023 年度第 4 期コレクション展特別展示

※寄託資料等、当館保管資料を含む。

## ② 所蔵資料の写真撮影等（閲覧、撮影、写真借用、掲載）

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No	利用 方法	点数	申請者/ 掲載者	掲載誌等の名称
1	4. 3	染付松竹梅文茶碗	A006984	掲載	5 点	陶祖加藤 民吉顕彰 事業実行 委員会	3 月 5 日（日） 開催「民吉フォー ラム」に関する 論考
2		瀬戸陶窯之図	B000068				
3		染付四君子文二段重	A002387				
4		金襴手盃	A000100				
5		古染付写雲鶴文手桶形水指	A000749				
6	4. 19	色絵菊文壺	A001660	掲載	3 点	編集室 青人社	株式会社玄光社 発行『日本伝統 の配色事典』
7		織部竹文三足皿	A001772				
8		鉄絵秋景図大皿	A001020				
9	5. 25	黒織部茶碗	A002827	掲載	1 点	株式会社 かみゆ	朝日新聞出版発行 『日本史 AERA with kids』
10	6. 9	仏像鈕蓋付経筒外容器	A001333	閲覧	2 点	垣内光次 郎	調査研究
		樹文蓋付経筒外容器	A001334	撮影			
11	6. 11	猿投窯東山 111 号窯出土 甕	愛知県陶 磁美術館 保管	撮影 掲載	1 点	高島悠希	修士論文
12	9. 15	円筒深鉢	A001222	掲載	11 点	企画・編 集工房 あみや	『子どもに伝え たい和の技術 14 やきもの』
13		壺	A001015				
14		二重口縁壺	A004704				
15		大甕	A001731				
16		琴を弾く男子	A002315				
17		灰釉短頸壺	A000888				
18		鉄釉貼付印花文合子	A001535				
19		壺	A001671				
20		志野たんぽぽ文向付	A001560				
21		織部角向付	A001573				
22		色絵雲錦手蓋物	A001697				
23	9. 15	甕	A002827	掲載	2 点	長野県立 歴史館	企画展「信州やき もの紀行～江戸か ら明治～」図録
24		鉄釉狛犬 阿	A000490				
25	9. 15	灰陶猪圈	A004307	掲載	1 点	株式会社ユ ニフォトプ レスインター ナショナル	京都造形芸術大学芸 術学部共通専門教育 科目『芸術史講義』 映像コンテンツおよ びその広報
26	9. 15	灰釉多口瓶	A002287	掲載	4 点	みよし郷土 史研究会	
27		灰釉陶片	A001270				

28		灰釉大椀片 （「内豎所」刻書）	愛知用水 関連資料				みよし郷土史研究会 『目で見るとみよ しの歴史』
29		緑釉陶器素地花文椀	愛知用水 関連資料				
30	9. 15	鉄釉狛犬 阿	A000493	掲載	6 点	豊川市桜 ヶ丘ミユ ージアム	豊川市桜ヶ丘ミ ュージアム特別 展「神殿狛犬の 魅力」図録
31		鉄釉狛犬 吽	A000494				
32		灰釉狛犬 吽	A000488				
33		御深井釉狛犬 阿	A000544				
34		鉄釉狛犬 阿	A000510				
35		鉄釉狛犬 吽	A000511				
36	9. 22	双耳深鉢	A000192	掲載	1 点	株式会社ユ ニフォトプ レスインタ ーナシヨナ ル	株式会社学書 「2023 年度中 3 国語公立模試（栃木 県版）」
37		双耳深鉢 文様部分	同上				
38	10. 12	灰陶井戸	A004322	掲載	1 点	松浦史子	シンポジウム「古代 中国の祥瑞文化と図 像」フライヤー
39	11. 10	色絵松竹梅文香炉	A001001	掲載	2 点	企画・編 集工房 あみや	文溪堂発行『子ども に伝えたい和の技術 14 やきもの』
40		弥生土器 壺	A001524				
41	11. 13	灰釉短頸壺	A000888	掲載	12 点	平成辻貝 戸窯 永田修	「中世猿投山西南麓 古窯からの山茶碗焼 成地遷移と藤岡窯の 成立－生産技術面か ら見た山茶碗焼成地 遷移原因の推測－」
42		灰釉短頸壺	A000888				
43		灰釉多口壺	A002287				
44		灰釉鳥形平瓶	A002239				
45		灰釉手付瓶	A002297				
46		灰釉平瓶	A002295				
47		平瓶	A001880				
48		灰釉小瓶	A001324				
49		灰釉手付瓶	A001328				
50		白陶長頸壺	A006030				
51		陶質土器櫛目文壺	A004230				
52		壺	Y000364				
53	11. 18	須恵器 供膳具	愛知用水 関連資料	掲載	2 点	桑野綾太	情報文化学会第 31 回全国大会講 演予稿集
54		須恵器 供膳具					
55	11. 28	壺	A001548	掲載	3 点	KSG クリ エイト株 式会社	全国タイル工業 組合製作「タイ ルの魅力を再発 見！」（動画）
56		甕	A001737				
57		四耳壺	A000409				
58	12. 8	色絵草花文香炉	A002243	掲載	3 点	有限会社 ヴェー企 画	ナツメ社発行『う つわの教科書』
59		陽刻上絵金彩花鳥図花瓶	A002485				
60		天目	A001418				
61	12. 8	黄瀬戸茶碗	A000144	掲載	1 件	株式会社 ネクサス	テレビ東京「開運！ なんでも鑑定団」
62	12. 15	灰釉蔵手唐草文手付水注	A007201	掲載	2 点	株式会社 山川出版 社	『日本史のなか の愛知県』（仮 称）
63		牡丹文経筒外容器	A000349				
64	12. 25	織部葉形大皿	A000129	掲載	4 点		

65		染付四君子文二段重	A002387			株式会社 スタジオ パラム	メイツ出版『日 本のやきもの のひみつ』
66		色絵金銀菱繫文茶碗	A002678				
67		色絵松竹梅文丁字風炉	A001001				
68	2024. 1. 2 2	灰釉多口瓶	A002287	掲載	1点	柴田成志	技能五輪国際大 会リーフレット (2020 作成) 掲 載画像の継続使 用
69	2024. 1. 2 5	灰釉四耳壺	A001520	掲載	4点	株式会社 淡交社	月刊茶道誌『淡 交』2月号、3月号
70		千条文挿座茶入	A002660				
71		灰釉木ノ葉文瓶子	A001809				
72		短頸壺	A001235				
73	2024. 1. 2 5 2024. 2. 2 9	陶片	A001236	熟覧 撮影 掲載	2件	中京大学先 端共同研究 機構文化科 学研究所 特任研究員 西村健太郎	名古屋古代史研究会 2月例会「三河守 藤原朝臣顕長」在銘 短頸壺の刻銘とその 意味」資料図版
74		灰釉芦鷺文三耳壺	A001094				
75	2024. 3. 4	山茶碗一括 (H-G-105 号窯跡)	愛知県陶 磁美術館 保管	熟覧 撮影 実測 拓本 等	6点	滋賀県立 大学 西村 空	卒業論文
76		山茶碗一括 (H-G-101 号窯跡)					
77		山茶碗一括 (H-G-55 号窯跡)	愛知用水 関連資料				
78		山茶碗一括 (H-G-61・79 号窯跡)					
79		山茶碗一括 (O-G-1 号窯跡)					
80		山茶碗一括 (K-G-5・6 号窯跡)					
81	2024. 3. 2 9	色絵染付棕櫚葉文皿	A002318	掲載	1点	豊橋市美 術博物館	豊橋市美術博物 館常設展示「と よはしの歴史」
82	2024. 3. 2 9	色絵染付棕櫚葉文皿	A002318	掲載	16点	編集室 青人社	玄光社発行『日 本の文様図典』
83		赤絵玉取獅子図大皿	A001507				
84		色絵獅子	A001617				
85		鉄絵雲鶴文六角鉢	A003267				
86		染付雪輪文瓶	A001442				
87		染付山水菊花貼付文花生	A000322				
88		志野山水文鉢	A001846				
89		織部扇面蓋物	A000127				
90		染付扇窓絵重箱	A003475				
91		染錦間垣花籠文大皿	A000208				
92		色絵絵草紙文皿	A000820				
93		色絵金銀菱繫文茶碗	A002678				
94		染付唐草文鉢	A000748				
95		織部茶碗	A002827				
96		染付四君子文二段重	A002387				
97		色絵龍虎図輪花皿	A002242				

※寄託資料等、当館保管資料を含む

### (3) 資料保存

#### 所蔵資料の保存・修復

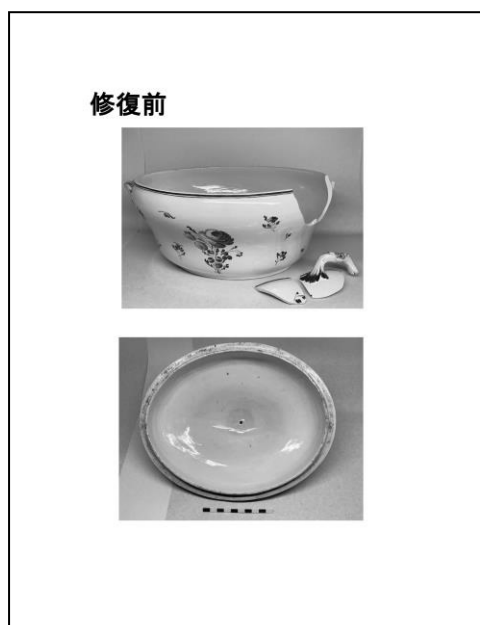
盛田昌夫コレクション9点の修復

2022年度に寄附を受けた盛田昌夫コレクション(ドッチア窯およびリチャード・ジノリ窯の陶磁器)全149点のうち、損傷や過去の修復の劣化が比較的大きい9点を修復師の加藤豊子氏に委託し、修復及び修復記録の作成を行った。

#### 〈修復作品〉

- ・ スープチューリン〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 1点  
高 27.1×最大幅 27.2cm
- ・ ミニカップ〈イタリアン・フルーツ〉 1757-1792年製作 2点のうち1点  
高 4.2×口径 6.5cm
- ・ ディナープレート〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 3点のうち2点  
高 3.5×口径 30.0cm
- ・ オーバルプレート〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 1点  
高 4.6×最大径 36.5cm
- ・ スープ皿〈アンティック・ローズ〉 (2-1-Bディナー皿) 1780-1800年製作 1点  
高 4.3×口径 23.4cm
- ・ デザートプレート〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 6点のうち1点  
高 2.7×口径 22.8cm
- ・ ピクルス・プレート〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 2点のうち1点  
高 3.5×最大幅 22.3cm
- ・ ソースボート〈アンティック・ローズ〉 1780-1800年製作 1点  
高 6.0×最大幅 15.8cm

#### 修復レポートより



## 7 調査・研究

### (1) 研究紀要

『愛知県陶磁美術館 研究紀要 29』を当館公式 WEB ページで刊行した。

・大西 遼・葉名彩香

「愛知県下の窯業遺跡出土資料に関する基礎的調査報告Ⅶー岩崎 25 号窯式前後の須恵器窯、棧敷 1 号窯跡、八事一堂跡出土資料ー」／pp. 1-17／

・小川裕紀

「教育実践報告 中部大学・学芸員課程「博物館展示論」2022・2023」／pp. 18-69／

### (2) 研究論文等

佐藤一信

- ・「国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センターの参考収集品について」／展覧会リーフレット『特別展 収集された海外の陶磁器』／2023. 4／瀬戸市美術館
- ・「初代諏訪蘇山の京都「登場」と釉下彩作品について」／展覧会リーフレット『初代諏訪蘇山展』／2023. 9／京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- ・展覧会レビュー「青磁鳳雲文花瓶にみる諏訪蘇山の革新性と古典研究」／『現代の眼』638 号／2024. 3. 31／東京国立近代美術館
- ・「初代諏訪蘇山について」（学会事業報告）／『東洋陶磁』53 号／2024. 3／東洋陶磁学会

大槻倫子

- ・「日本のやきもの酒器」／展覧会図録『酒と醸す美術 美酒と美器への憧れ』2023. 11／郡山市立美術館

小川裕紀

- ・「陶磁の狛犬を観る」／展覧会図録『神殿狛犬の魅力』／2023. 10／豊川市桜ヶ丘ミュージアム

田畑 潤

- ・章解説「第三章 森家の煎茶道具について」／作品解説 青木木米「涼炉 三峯爐」など 24 点／展覧会図録『一宮市博物館 令和 5 年度企画展 尾張の文人画 森コレクションを中心に』／2023. 11. 14／一宮市博物館

佐久間真子

- ・展示内掲出物「尾張鉢？（ってなに）」／「皇居の尾張鉢」展／2023. 9. 23-11. 5／昭和美術館

入澤聖明

- ・「織部の緑釉に見出された深淵 鈴木徹」／『炎芸術』第 155 号／2023. 8／阿部出版
- ・「【工芸リレー】CONNEXT2023 展について」／【工芸リレー】CONNEXT2023 展記録集／2024. 2／名古屋芸術大学

大西 遼

- ・「最近出土の陶磁トピックス（2022 年 1 月～12 月）（3）東海地方」／『東洋陶磁学会会報』第 101 号／2024. 2／東洋陶磁学会

### (3) 講演、講義等

佐藤一信

- ・講演・対談「国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センターの参考収集品について」／『瀬戸市美術館特別展 収集された海外の陶磁器』／2023. 5. 20／瀬戸市文化センター
- ・講演「やきものにみる ものづくりと人 京都・清水六兵衛家」／2023. 6. 22／愛知県鉄工連合会
- ・鼎談『愛知県美術館企画展 幻の愛知県博物館』／2023. 8. 19／愛知県美術館
- ・講義「やきものから瀬戸・愛知・世界を見るー古地理・ものづくり・未来ー」／2023. 10. 26／瀬戸西高等学校
- ・発表「陶磁分野における革新技法ー京都時代を中心にー」／『シンポジウム 初代諏訪蘇山の革新技法』／2023. 10. 1／京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- ・発表「初代諏訪蘇山について」・パネルディスカッション「明治陶磁の収集と作家研究」／東洋陶磁学会『第50回大会 明治陶磁研究の現在地』／2023. 12. 2-3／瀬戸市文化センター

大槻倫子

- ・講演「煎茶のやきもの諸国巡り」／2023. 8. 27／全日本煎茶道連盟 第56回夏季大学
- ・発表「信楽焼とは一茶の湯道具を中心に」／2023. 11. 25／茶の湯文化学会 東海例会
- ・講演「酒器の玉手箱 日本のうつわはこんなに面白い」／2024. 1. 14／愛知県図書館 文化芸術に関する連続講座第3回

小川裕紀

- ・「博物館展示論」(講義全15回及び課題講評並びに成績評価)／2023. 9. 22-2024. 2. 15／中部大学

田畑 潤

- ・スペシャルトーク「煎茶全盛・茗謙図録の時代と森コレクションの煎茶道具」／2023. 10. 28／一宮市博物館

佐久間真子

- ・尾張旭市 郷土の歴史講座「陶製狛犬を学ぼう！～身近な守り獣と江戸のやきもの基礎知識～」／2023. 12. 9／スカイワードあさひ
- ・「犬山焼の獅子・狛犬の表現」(青木修・井上あゆこ・宮川菜々子・中野耕司・鈴木智恵各氏との共同発表)／2023年度「あいち考古学フェア2023」ポスターセッション／2023. 11. 7-11. 26／名古屋都市センター11階まちづくり広場

入澤聖明

- ・「東海地域でやきものづくりに携わる、ということ」／2023. 7. 13／多治見市陶磁器意匠研究所

大西 遼

- ・「ものづくり王国・愛知の幕開けと井ヶ谷古窯跡群」／企画展「井ヶ谷古窯展ーいにしへの刈谷のものづくりー」講演会／2023. 7. 22／刈谷市歴史博物館
- ・「平安京へ運ばれた尾張のやきものー米原の湖底遺跡から」／米原市歴史講座／2023. 9. 22／米原市役所本庁舎コンベンションホール
- ・「名古屋市八事一堂跡出土陶器の再検討」／2023年度「あいち考古学フェア2023」／2023. 11. 11／名古屋都市センター11階ホール
- ・「筑摩御厨遺跡出土の東海産窯業製品(素描)」(連名)／2023年度「あいち考古学フェア2023」／2023. 11. 11／名古屋都市センター11階まちづくり広場
- ・「古代の窯業生産と窯炉」／春日井古代史講座／2023. 11. 18／春日井市立中央公民館 第7集会室
- ・「貴族をも魅了した猿投窯の陶器～黒笹90号窯の時代を中心に～」／みよし猿投古窯研究会記念公演会／2024. 1. 28／図書館学習交流プラザ「サンライブ」1階ギャラリー

宮川菜々子

- ・講演「京焼の魅力を語る」／売茶流教授者会／2024. 3. 30／浄元寺(名古屋市)

#### (4) 審査員・委員等

佐藤一信

- ・沖縄県立芸術大学大学院芸術文化科学研究科学位論文審査／2023. 7. 1／沖縄県立芸術大学
- ・東京国立近代美術館美術作品評価／2023. 11. 20／国立工芸館
- ・ニュートラの学校：福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成と仕組みづくり実行委員会／2023. 7－2024. 3／文化庁／一般財団法人たんぼぼの家
- ・瀬戸市史編さん委員会／2023. 10. 1－2024. 3. 31／瀬戸市
- ・瀬戸市史編さん委員会陶磁史編第八巻専門部会／2024. 3. 1－3. 31／瀬戸市

大槻倫子

- ・兵庫陶芸美術館収蔵品価格評価／2023. 11. 22／兵庫陶芸美術館
- ・滋賀県立陶芸の森陶芸作品等収集審査会委員／2023. 12. 25／滋賀県陶芸の森
- ・四日市市立博物館資料委員会委員
- ・彦根城博物館協議会委員／2023. 11. 7、2024. 2. 19／彦根城博物館
- ・宇治市文化財保護委員会委員

入澤聖明

- ・【工芸リレー】CONNEXT2023 展 作品講評会／7. 14／名古屋芸術大学
- ・岐阜県立多治見工業高等学校 専攻科 作品講評会／2024. 2. 10／とうしん学びの丘 “エール”
- ・第 55 回東海伝統工芸展審査委員／2024. 3. 9、10／とうしん学びの丘 “エール”
- ・日本陶磁協会賞推薦委員／2023 年度、2024 年度
- ・名古屋芸術大学 近現代工芸論・造形論／履修登録者 16 名

大西 遼

- ・「香久山古窯から学ぶやきもののルーツ」講師／2023. 6. 25／  
香久山古窯(日進市香久山 5 丁目 1905 番地 すずかぜ公園地内)
- ・「国指定史跡瀬戸窯跡小長曾陶器窯跡保存修理検討会」指導・助言／2023. 12. 25／  
瀬戸市文化センター

## 8 教育・普及

多様な魅力を有する陶磁文化について理解を深めるため、講演会や講座、ワークショップ等を開催した。また、学校教育や地域団体との連携事業に取り組んだ。

### (1) 学校連携事業

#### ① 展示見学・作陶体験受け入れ（月別受け入れ状況）

展示解説のみ 5月4校、6月2校、…計6校  
作陶体験のみ 5月8校、6月7校、…計15校  
展示見学のみ 5月1校、6月1校、…計1校  
展示解説と作陶体験 5月3校、6月1校、…計4校  
展示見学と作陶体験 5月1校、6月0校、…計1校  
※小学校9校 中学校4校 高校5校 大学5校 幼稚園・保育園2校 その他2校

#### ② 学校団体向けプログラム

「ワクワクやきもの体験 知る・見る・つくる、そして感じる」  
詳細は、9 陶芸館(50頁)を参照。

#### ③ 愛知県立瀬戸つばき特別支援学校との連携

愛知県立瀬戸つばき特別支援学校・高等部の卒業制作として、陶壁制作と同行敷地内で採取した土で茶碗の制作を行った。

完成した陶壁は、瀬戸つばき特別支援学校敷地内に設置された。

日 時 6月9日(金) 9:00-15:00

会 場 陶芸館

参加者数 38人

### (2) 地域の大学との連携

#### ① 大学講義（愛知県立芸術大学）

愛知県立芸術大学の美術・教育普及教育に協力するため、大学で講義を行った。

日 時 11月7日(火)

講義内容 神奈川県立平塚盲学校の生徒への制作体験と作品鑑賞の実践

講 師 陶芸指導員 岩渕 寛

担当科目 修士総合研究Ⅱ

履修登録者 2名

#### ② パートナーシップ 実績

大学生等が陶磁文化に親しみ、当館が行う事業への理解を深めてもらうことを目的とした制度。参加大学等の学生や教職員が、当館の展覧会を自由に観覧することができ、また当館を利用した研究活動等を実施することができる。大学等は観覧料を後払いで負担する。

参 加 校	利用者数
愛知医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立芸術大学 愛知県立大学、愛知工業大学、金城学院大学、中京大学、中部大学 東海学園大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、名古屋学芸大 学、名古屋経営短期大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学 名古屋造形大学、名古屋大学、名城大学、愛知高等学校 名城大学附属高等学校（計19大学、2高等学校） (2024年3月31日現在)	学生 180人 教職員 16人  計 196人

### (3) 館内実施講座

展覧会の理解を深めるため、講演会、講座、ワークショップなどを開催している。

#### 視覚障がい者の作品鑑賞 触れてたどるやきものの歴史 外国陶磁編

視覚障がい者の作品鑑賞体験として、当館の所蔵品を触れて鑑賞した。その後、美術館の建物ツアーをボランティアグループ・アートな美の協力を得て実施した。

日 時 5月25日(木)  
講 師 館長 佐藤一信、主任学芸員 田畑 潤、  
学芸員 佐久間真子、学芸員 鮫島由佳  
参加者数 20人

### (4) 館外実施講座・講義

#### ① 県政お届け講座「もっと知りたい！愛知のやきもの」

愛知県広報広聴課が広報・受付窓口を行っている「県政お届け講座」のうち、愛知県陶磁美術館が担当する講座を実施した。

日 時 2024年1月17日(水)  
会 場 東浦町立藤江小学校  
講 師 学芸員 鮫島由佳、学芸員 大西 遼  
参加者数 52人

#### ② 学校団体向け講座「職業講座」

日 時 2024年1月26日(金)  
会 場 瀬戸市立にじの丘中学校  
講 師 学芸員 鮫島由佳  
参加者数 102人

#### ③ 愛知県図書館との連携講座

##### ③-1 愛知県図書館「文化芸術に関する連続講座2023」第2回 「愛知ゆかりのまちのディティール タイル・陶壁について」

日 時 9月9日(土) 14:00-15:00  
会 場 愛知県図書館 1階エントランス Yotteko (ヨッテコ)  
講 師 館長 佐藤一信  
参加者数 26人

##### ③-2 愛知県図書館「文化芸術に関する連続講座2023」第3回 「酒器の玉手箱ー日本のうつわ使いはこんなに面白いー」

日 時 2024年1月14日(日) 14:00-15:00  
会 場 愛知県図書館 1階エントランス Yotteko (ヨッテコ)  
講 師 学芸課長 大槻倫子  
参加者数 35人

#### ④ 愛知県児童総合センター連携実施プログラム

当館では、子どもと大人が児童館と美術館を自在に行き来し、アートを通じてともにのびのびと育つことを目的に愛知県児童総合センターと連携プログラムを行っている。

##### ④-1 土どろウォーキング

日 時 5月28日(日)  
会 場 愛知県児童総合センター・愛知県陶磁美術館  
講 師 館長 佐藤一信  
参加者数 24人

#### ④-2 あなをほる

日 時 ①6月3日(土)、②6月4日(日)  
会 場 愛知県児童総合センター モリコロパーク  
講 師 館長 佐藤一信  
参加者数 ①13人、②13人

#### ④-3 土をやく

日 時 ①10月29日(日)、②11月26日(日)、③12月2日(土)  
会 場 愛知県児童総合センター  
講 師 館長 佐藤一信  
参加者数 ①22人、②23人、③20人



④-1 土どろウォーキング



④-2 あなをほる



④-3 土をやく



#### ⑤ 県行政機関連携 あいち海上の森センターとの連携企画 「海上の森アカデミー里山暮らしコース 野焼き」

①制作と展示見学、②焼成  
①12月10日(日)、②2024年1月27日(土)・28日(日)  
会 場 ①、②とも海上の森  
講 師 館長 佐藤一信  
参加者数 ①12人、②24人

## (5) ボランティア

### ① ボランティア活動

県民に広く生涯学習の場を提供するとともに、観覧者への学習活動を支援するため「愛知県陶磁美術館ボランティア」を設置している。なお、改修工事に伴う休館及びリニューアルオープン後の活動の見直しのため2023年度をもって「愛知県陶磁美術館ボランティア」は解散した（環境整備ボランティアを除く）。2024年3月31日現在、登録者数延べ97人。

#### ①-1 展示解説ボランティア

活動概要 常設展「日本と世界のやきもの」展示解説。（1999年結成）  
活動日 活動休止  
活動場所 本館2階展示室  
登録者数 39人

#### ①-2 ガイドボランティア

活動概要 窯業原料等を用いて、やきものの魅力等をガイドする。（2011年結成）  
活動日 活動休止  
活動場所 本館玄関ロビー  
登録者数 18人

#### ①-3 発送等ボランティア

活動概要 広報印刷物の郵便発送（丁合、封入等）を補助する。（2011年結成）  
活動日 月2回程度、水曜日の午前  
活動場所 本館会議室  
登録者数 18人

#### ①-4 環境整備ボランティア

活動概要 園内の除草、花木の施肥作業を行う。（2017年結成）  
活動日 主に5月-11月の毎月1回、月曜日の午前  
活動場所 茶畑「愛陶茶園」など  
登録者数 22人

### ② ボランティア研修

「愛知県陶磁美術館ボランティア」の活動を支援するため、主に当館学芸員が講師として研修会を開催している。本年度は一般来館者へは公開しなかった。

#### ②-1 令和5年度陶磁美術館の事業について

日時 4月21日（金）  
会場 愛知県陶磁美術館講堂  
講師 学芸課長 大槻倫子  
参加者数 21人

#### ②-2 常設展「日本と世界のやきもの」ギャラリートークリレー

日時 5月30日（火）  
会場 愛知県陶磁美術館 第3-第6展示室  
講師 学芸課  
参加者数 23人

#### ②-3 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館

##### 共同企画「コレクションズ・ラリー」展示説明

日時 2024年2月29日（木）  
会場 愛知県美術館 アートスペースA・展示室  
講師 石崎 尚（愛知県美術館学芸員）、  
中野 悠（愛知県美術館学芸員）、  
学芸員 佐久間真子、学芸員 大西 遼  
参加者数 17人

## 9 陶芸館

陶芸館では陶芸指導員の指導により、利用者が希望に応じて自由に作陶体験できる陶芸実習（6月18日まで）を実施した。

なお、利用者が制作（成形・絵付）した作品の乾燥・素焼・施釉・本焼は陶芸指導員（本項では、非常勤職員を含む）が当館内の窯炉などを用いて行った。

### （1）通年事業：陶芸実習

#### ○ 実習内容

作陶：利用者の希望と経験により、自由に制作（成形）を行う。

（作品の大きさ制限あり）

絵付：予め制作された素焼きの皿・湯呑に絵付を行う。

#### ○ 説明及び指導

作陶の初心者を対象とした説明会を9:30から14:30までの毎時0分・30分に開催した。

また、陶芸指導員が実習室に常時在室し、利用者の要望に応じて指導を行った。

#### ○ 利用者定員

作陶（電動ロクロを除く）・絵付：164人、電動ロクロ：18人

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため作陶82人、電動ロクロ10人

#### ○ 利用時間

9:30から16:30まで

（受付開始9:15、初心者向け最終説明会14:30）

#### ○ インターネットでの事前予約

オンライン予約

1-19人までの利用。Cubic by STORES 予約サイトを利用

9:30-11:30、11:30-13:30、13:30-15:30の回で各回30人。

STORES 予約サイトへは陶磁美術館 WEB ページから移動可。

〈予約方法〉

各予約申込書を WEB ページからダウンロードし、メールか FAX で送付。

予約の可否を当館から返信。

団体予約（20人以上） 団体予約申込書

学校団体

学校団体向け特別プログラム用申込用紙

その他団体

一般団体用申込書

#### ○ 利用料金

（2024年3月31日現在）

区 分	内 容	料 金	
		一 般	中学生以下
実習室 使用料	2 時間まで	300 円 (240 円)	150 円 (120 円)
	4 時間まで	600 円 (480 円)	300 円 (240 円)
	7 時間まで	900 円 (720 円)	450 円 (360 円)
焼成料	作陶（粘土 1 kg 毎）	300 円	
	絵付（1 個 毎）	300 円	

\*（ ）内は 20 名以上の団体料金。

\*粘土や絵付素材などについては、陶芸館内の売店で別途販売。

## ○ 学校団体向け特別プログラム

「ワクワクやきもの体験 知る・見る・つくる、そして感じる」

展示鑑賞・学芸員による解説と作陶体験を組み合わせた学校団体向け特別プログラム。小中学校の愛知の産業や図工・美術の授業に対応した「特別プログラム」を用意し、学校団体利用の増加を促した。また、従来の作陶・絵付けのみの体験は「基本プログラム」とした。

専用の申込用紙を制作し、WEB ページよりダウンロード可能とし、E-mail もしくは FAX にて受付を行っている。

### 特別プログラム「使って楽しいやきもの」

対応する授業 愛知の産業・図工（4・5年生）  
利用校数 21校

### 特別プログラム「瀬戸染付の伝統模様をかいてみよう」

対応する授業 愛知の産業（4・5年生）  
利用校数 4校

### 特別プログラム「願いをこめて瀬戸こま犬をつくろう」

対応する授業 愛知の産業・歴史（4・5年生）  
利用校数 4校

### 特別プログラム「立ち上がれ！ねんど」

対応する授業 図工・美術（4・5年生）  
利用校数 —

### 特別プログラム「落書き印花皿」

対応する授業 図工・美術（4・5年生）  
利用校数 7校

## (2) 「はじめての陶芸館」

2020年度から開始した、陶芸館の利用促進のための事業。はじめて陶芸館を利用する方に向けてやきもの作りの入り口となるような講座。やきものを全く作ったことがない方でも、手軽に制作できる簡単な作り方で「使える器」や「陶人形」を制作する陶芸体験を開催した。2023年度は、長寿命化改修工事による休館のため6月までの開催となった。「土を転がし一輪挿し」「ザクザク掘り出せ！貯金箱」と、毎年好評を得ている「恐竜をつくろう」を開催した。

### ①「土を転がし一輪挿し」

実施日 4月23日（日）  
参加者数 14人

### ②「ザクザク掘り出せ！貯金箱」

実施日 5月28日（日）  
参加者数 28人

### ③「恐竜を作ろう！」

実施日 6月18日（日）  
参加者数 92人



①A4 チラシ



②A4 チラシ



③A4 チラシ

### (3) 地域連携

#### ① 2023年度 長久手市文化の家 アートスクール講座 土から作る陶芸講座 「やきものから長久手を知る～知る・見る・作る、そして使う～」

長久手市文化の家、愛知県立芸術大学と連携し、長久手市文化の家 アートスクール講座 土から作る陶芸講座「やきものから長久手を知る～知る・見る・作る、そして使う～」を開催した。館長 佐藤一信の「土の話」講話、長久手周辺出土の「猿投窯」の陶片鑑賞から始まり、瀬戸の原土から花器を制作し、花をいけるまでを行う連続講座。鬼板を砕き下絵付けの絵具を制作する、愛知県立芸術大学の敷地で採取した枯れ枝を、野焼きで焼いた灰で釉薬をつくるなど、原料の精製過程からやきものづくりを体験する密度の高い講座となった。

また、愛知県立芸術大学内に保存されている「三ヶ峯1号窯・2号窯」を当館学芸員大西 遼の解説の下、特別に見学するなど、愛知県立芸術大学、陶磁美術館の共同企画でなければできない特別な講座を作り上げた。最終日には参加者が原土から制作した花器に、花をいけ、やきものを使う楽しさも体験した。

テーマ やきものを見る・触れる 愛知県陶磁美術館で長久手を知る  
会場 愛知県陶磁美術館  
実施日 5月27日(土)  
内容 佐藤一信館長の話を聞く。学芸員とともに愛知県陶磁美術館を見学。長久手周辺で出土した猿投の陶片に触れる体験。

テーマ 瀬戸の土に触れる  
会場 長久手市文化の家  
実施日 6月24日(土)  
内容 瀬戸地域の代表的な粘土、蛙目粘土・木節粘土の原土、長久手周辺の土を簡易に製土する。

テーマ テストピースづくり  
会場 長久手市文化の家  
実施日 7月22日(土)  
内容 6月に製土した粘土でテストピースを作る。

テーマ やきものの絵の具を作るー鬼板ー  
会場 長久手市文化の家  
実施日 8月26日(土)  
内容 「鬼板」ーおにいたーを粉碎し絵の具を作る。長久手周辺で出土した猿投の陶片に触れる体験。

テーマ 土を焼く、灰を作る  
会場 愛知県立芸術大学  
実施日 9月23日(土・祝)  
内容 野焼きでテストピースを焼く、灰を作る。「三ヶ峯1号窯、2号窯」、愛知県立芸術大学の見学。

テーマ 釉薬を作る  
会場 長久手市文化の家  
実施日 10月28日(土)  
内容 野焼きしたテストピースに鬼板で絵付けをし、灰釉を施釉する。



やきものの絵具を作る  
ー鬼板ー



土を焼く、灰を作る

テーマ 花器を作る①  
 会場 長久手市文化の家  
 実施日 11月25日(土)  
 内容 6月に製土した原土を参加者の好みで混合し、花器を作る



花器を作る①、②

テーマ 花器を作る②  
 会場 長久手市文化の家  
 実施日 12月23日(土)  
 内容 花器の仕上げ

テーマ 花器を作る③  
 会場 長久手市文化の家  
 実施日 2024年2月24日(土)  
 内容 「鬼板」で絵付け、9月に野焼きで焼いた「灰」でつくった釉薬を施釉する。  
 (愛知県立芸術大学で焼成)

テーマ 花をいけるーやきものを使うー  
 会場 長久手市文化の家  
 実施日 2024年3月23日(土)  
 内容 焼きあがった花器に花を生ける



花をいける  
ーやきものを使うー

時間 各回 13:30-15:30  
 ただし 5月27日、9月23日、2024年3月24日は 13:00-15:00

担当 米原美郷氏 松林紗紀氏  
 (長久手市文化の家 長久手市暮らし文化部 生涯学習課)

佐藤文子氏 (愛知県立芸術大学 陶磁専攻 准教授)  
 子林千紘氏 (愛知県立芸術大学 美術研究科 陶磁領域 研修生)  
 浅野詩織氏 (愛知県立芸術大学 美術研究科 陶磁領域 2回生)  
 館長 佐藤一信、学芸員 大西 遼  
 陶芸指導員 岩渕 寛、臨時職員 宮下 陽、非常勤 吉田庄吾

参加者数 16人(定員15人)  
 参加料 18,000円

## ② 2023年度 愛知県緑化センター みどりづくり研修「盆栽鉢を楽しむ」

愛知県緑化センターと連携し、「盆栽鉢を楽しむ」2回連続講座を開催した。1回目に当館陶芸指導員が愛知県緑化センターに赴き「植木鉢」制作の制作体験を行った。2回目は、制作した「植木鉢」に、盆栽作家の三浦克友氏の指導の下、植え込みを行った。

日時 7月8日(土)、9月9日(土) 各回 13:00-15:00

講師 三浦克友氏 (moss green ikkei 代表・盆栽作家)

担当 田畑やよい氏 (公益財団法人愛知県公園協会 愛知県緑化センター 主査)  
 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 近藤ひとみ、非常勤 吉田庄吾

参加料 1,500円

参加者数 25人(定員25人)

## ③ 2023年度 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 特別展「神殿狛犬の魅力」

### 関連イベント「陶製狛犬を作ろう」

豊川市桜ヶ丘ミュージアムにて開催された特別展「神殿狛犬の魅力」の関連イベントとして「陶製狛犬をつくろう」を開催した。当館の「狛犬制作」技術と経験を活かした制作体験を行った。

日時 11月4日(土) 14:00-15:30

会 場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム 1階・第1 実習室  
 担 当 堀澤良円氏（豊川市桜ヶ丘ミュージアム 学芸員）  
 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 清水美香子  
 参 加 料 無料  
 参加者数 15 人（定員 15 人）

④ 「あいちの発掘調査 2023」関連イベント  
 「パレス・スタイル土器を作ろう」プロジェクト

あいち埋文サポーターズクラブの協力の下、パレス・スタイル土器の制作体験を行った。瀬戸の砂気が多い白い土で成形し、天然の弁柄で赤彩も施した。朝日遺跡ミュージアムでの土器の野焼き時に合わせ焼成した。また、「愛知の発掘調査 2023」関連講演会（清須市教育委員会共催事業）「斜め上から見たパレス・スタイル土器」にて、結果報告を行った。

日 時 制作日 10月4日(水) 10:00-15:00  
 講演会 2024年1月25日(木) 13:30-16:30  
 焼成日 2月4日(日) 10:00-15:00  
 会 場 あいち朝日遺跡ミュージアム・清州市民センター（講演会会場）  
 担 当 原田 幹氏（あいち朝日遺跡ミュージアム 学芸課長）、早野浩二氏  
 （公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター）  
 陶芸指導員 岩渕 寛  
 協 力 あいち埋文サポーターズクラブ  
 参加者数 5 人

⑤ 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画「お庭に埴輪プロジェクト」

古代の焼物の歴史を学びながら、参加者のオリジナル埴輪を作って、個々の家庭の庭やベランダに飾る企画。体感！しだみ古墳群ミュージアムと当館の資料や施設、職員が交流しながら、古墳時代のやきものを中心に、陶磁文化を地域の人たちに伝えることを目的とする。

第1回「土づくり」は、当館にて採取した土を篩にかけるなどし、簡易に精土を行った。第2回「埴輪の成形」は、精土した土を使用し、埴輪の制作を行った。テーマは自由とし、参加者は個々にオリジナリティ溢れる埴輪を作り上げた。第3回「色づけ」は、当館で採取した土を使用し制作した埴輪に着色。完成した埴輪は、体感！しだみ古墳群ミュージアムにて焼成を行った。

日 時 第1回 2024年1月28日(日) 10:00-15:00  
 第2回 2月4日(日) 10:00-15:00  
 第3回 3月3日(日) 10:00-15:00  
 会 場 体感！しだみ古墳群ミュージアムとその周辺  
 担 当 服部哲也氏（特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク 副理事長）  
 非常勤 清水美香子、非常勤 青井すみれ、  
 臨時職員 宮下 陽  
 参 加 料 3,000 円  
 参加者数 26 人



お庭に埴輪プロジェクト

## (4) 休館中の取組

### ① アーティスト in 出張陶芸館

「アーティスト in 陶芸館」は、瀬戸・常滑や東海地方で活躍する陶芸家や現代美術家等を講師に招聘し、参加者との交流を深めながら楽しくやきものづくりの体験、講師の持つ特別な技術を体感することを目的としている。

2023年度は、長寿命化改修工事のため、瀬戸市新世紀工芸館・豊川市桜ヶ丘ミュージアムに赴き、共催事業「アーティスト in 出張陶芸館」として開催した。

講師の技術や経験から生まれる個性豊かな「表現方法」に焦点を当て、参加者と講師がコミュニケーションをとりながら、各会場や地域の特色を踏まえ、その時間の中でしか生まれない魅力的な体験講座を展開した。また、阿曾藍人氏の回では、瀬戸市新世紀工芸館・展示棟にて、ワークショップで参加者が制作した作品を含めた「阿曾藍人」展を開催した。

#### ①-1 阿曾 藍人 ワークショップ 瀬戸の土で陶板をつくる

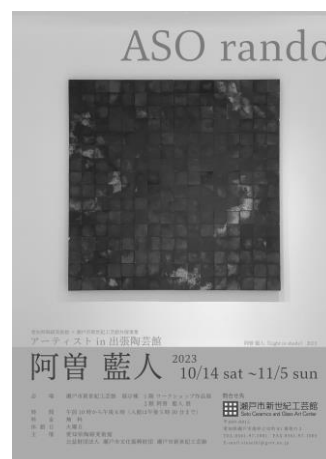
講師に岐阜県美濃加茂市の陶芸家・阿曾藍人氏を招聘し、講師の作品制作にも使われている技法の体験型ワークショップを開催した。

瀬戸の鉾山で採掘された土、愛知県陶磁美術館の敷地内で採取した土を、各々の好みで参加者自ら砕き、水を加えて泥状にし、石膏版の上で伸ばし乾燥させて、薄い粘土の板を制作した。また、陶磁美術館の敷地内で採取した黄土で、粘土の板に参加者の好みで絵付けを施した。

完全に乾燥させた粘土の板を、屋外に阿曾氏が制作した簡易な窯で焼成し、「陶板」として焼き上げた。熱いうちに窯から取り出し、身近な植物や、もみ殻を焼き付けて模様を生み出した。「焼く」ことで土の色や表情が変化することを参加者は間近で体感した。

完成した「陶板」は、瀬戸市新世紀工芸館・展示棟にて開催した「阿曾藍人」展にて、ワークショップ作品展として報告展示を行った。

日 時	9月30日(土) 10:30-15:30 (途中1時間の休憩あり)
会 場	瀬戸市新世紀工芸館・工房棟3階 体験工房とその周辺
講 師	阿曾藍人氏(美濃加茂市)
担 当	大西祐一氏、石川理恵氏 (瀬戸市新世紀工芸館 陶芸担当)
	学芸員 入澤聖明、 陶芸指導員 岩渕 寛、 非常勤 吉田庄吾、 臨時職員 宮下 陽
参加料	1,000円
付帯催事	「阿曾藍人」展 瀬戸市新世紀工芸館・展示棟にて開催 10月14日(土) - 11月5日(日)
参加者数	9人(定員10人) ※1人欠席



A4 チラシ



阿曾藍人 ワークショップ 瀬戸の土で陶板をつくる



### ①-2 前田 正剛 愛知の陶芸家の技を体験しよう

豊川市桜ヶ丘ミュージアムで開催した、出張展示「AICHI やきもの どんまい」の関連行事として開催した。

岡崎市にて作陶をする陶芸家・前田正剛<sup>まえだせいごう</sup>氏を講師に迎え制作体験を行った。「掛分釉彩」という講師独自の技法を使い、複数の釉薬を蠟抜き技法などによって段階的に掛け分け「皿」に「掛分釉彩」による絵付を実際に体験した。また、講師の作品を実際に手に取り鑑賞しながら、ご自身の制作についての質疑応答の時間も設けた。

日 時	2024年1月20日(日) 13:30-16:00
会 場	豊川市桜ヶ丘ミュージアム 陶芸室
講 師	前田正剛氏(岡崎市)
担 当	石川かおり氏(豊川市桜ヶ丘ミュージアム 学芸員) 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 清水美香子
参加料	無料
参加者数	18人(定員15人)

### ①-3 道川 省三 ワークショップ デモンストレーション&トーク

瀬戸市新世紀工芸館を会場に、瀬戸を本拠地として制作を行っている道川省三<sup>みちかわしやうぞう</sup>氏による制作のデモンストレーションを行った。

土という素材を活かした、講師独自の造形方法を間近で見ることができる貴重な機会となった。また、海外での活動をスライドにて紹介するとともに、参加者からの質疑応答など講師との交流の場となった。

日 時	2024年2月3日(土) 13:30-15:30
会 場	瀬戸市新世紀工芸館・工房棟3階 体験工房
講 師	道川省三氏(瀬戸市)
担 当	大西祐一氏、石川理恵氏 (瀬戸市新世紀工芸館 陶芸担当) 学芸員 入澤聖明、陶芸指導員 岩渕 寛
参加料	無料
参加者数	15人(定員15人)



A4 チラシ

## ①-4 安永 正臣 アーティストトーク&スライドレクチャー

瀬戸市新世紀工芸館を会場に、三重県伊賀市で制作を行っている安永正臣氏やすながまさおみを講師に招聘し開催した。

本来やきものの表面を覆い強度を増したり、水漏れや汚れを防いだり、装飾の一つとしても重要な役割を果たしている「釉薬」を用いて造形し陶芸の概念を揺さぶるような表現を展開している安永氏。海外での活動や、現在の作品制作に至るまでの経緯などをスライドレクチャー形式でお話しいただいた。

日 時 2024年3月3日(日) 13:30-15:30  
 会 場 瀬戸市新世紀工芸館・工房棟3階  
 体験工房  
 講 師 安永正臣氏(伊賀市)  
 担 当 大西祐一氏、石川理恵氏  
 (瀬戸市新世紀工芸館 陶芸担当)  
 学芸員 入澤聖明、陶芸指導員 岩渕 寛  
 参加料 無料  
 参加者数 33人(定員15人)  
 ※定員を超える応募があったが、会場、講師の了承を得て、受け入れを行った。



A4 チラシ

## ② 出張陶芸館

休館中の「やきもの文化の普及」と「陶芸館の周知」のために「出張陶芸館」と題した作陶体験やワークショップを豊明市、瀬戸市、長久手市の文化施設に赴き開催した。

### ②-1 出張！陶芸館 in とよあけ ～あなたのまちに陶芸館がおじゃまします～

豊明市生涯学習課との共催事業として、当館陶芸指導員が豊明市「大蔵池公園陶芸の館」を会場に、様々な内容の作陶体験を行った。

「恐竜をつくろう」などの、陶芸館でも人気の高い講座から、当館で過去に開催した「泥で描く！」や「甕かめからカメを作る」など、陶芸の成形・装飾技法に焦点を当てた、ただつくるだけではない特別な作陶体験も開催した。

会 場 大蔵池公園 陶芸の館(豊明市)  
 定 員 20人  
 参加料 1,500円(「粘土で遊ぼう」のみ200円)  
 担 当 荒川博子氏(豊明市生涯学習課生涯学習係)  
 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 中島聡子、非常勤 近藤ひとみ、  
 非常勤 東 直生、非常勤 吉田庄吾、非常勤 清水美香子、  
 非常勤 高阪実由、非常勤 青井すみれ、臨時職員 宮下 陽

テーマ	実施日	参加者数
恐竜をつくろう	7月2日(日)	25人
粘土で遊ぼう	8月6日(日)	16人
泥で描く！	9月3日(日)	14人
干支をつくろう 辰	10月1日(日)	19人
親子でいっしょに狛犬をつくろう	11月5日(日)	28人
甕(かめ)からカメを作る	12月3日、10日(日)	10人
兜をつくろう	2024年2月4日(日)	29人
落書き印花皿	2024年3月3日(日)	23人



A4 チラシ

## ②-2 瀬戸市新世紀工芸館×愛知県陶磁美術館「作陶体験」

瀬戸市新世紀工芸館で開催している「作陶体験」を、両館の共催事業として開催した。「印花」や、「狛犬」、「転写」など、瀬戸とかかわりが深い内容の講座を中心に、「ひな人形」や「兜」など、新世紀工芸館の作陶体験でも人気の高い講座まで幅広い内容の講座を展開した。

会 場 瀬戸市新世紀工芸館  
 定 員 各回 10 名 (10:00-12:00、14:00-16:00)  
 参 加 料 1,670 円  
 担 当 石川理恵氏 (瀬戸市新世紀工芸館 陶芸担当)、  
 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 近藤ひとみ、非常勤 東 直生、  
 非常勤 吉田庄吾、非常勤 清水美香子、非常勤 高阪実由、  
 非常勤 青井すみれ

テーマ	実施日	参加者数
恐竜をつくろう	7月16日(日)	19人
パレススタイル土器をつくろう	8月20日(日)	15人
落書き印花皿をつくろう	9月17日(日)	5人
干支「辰」をつくろう	10月15日(日)	20人
泥で描く！筒書き world	11月19日(日)	9人
転写シールでコラージュ	12月17日(日)	20人
やきものの雛人形をつくろう	2024年1月21日(日)	16人
瀬戸の陶製狛犬をつくろう	2024年2月18日(日)	20人
五月人形「兜」をつくろう	2024年3月17日(日)	18人



A4 チラシ

## ②-3 瀬戸染付工芸館×愛知県陶磁美術館「瀬戸染付体験教室」

「瀬戸染付工芸館」にて開催している「絵付け体験」に陶芸指導員を講師として派遣した。各回、異なった器形がテーマとなるため、「かたち」を意識しながら瀬戸の伝統技法のひとつである「染付」を体験することができ、その面白さや奥深さを実感できる講座となった。

会 場 瀬戸染付工芸館  
 定 員 各回8名（10:00ー、14:00ー、各回2時間程度）  
 参加料 1,300円  
 担 当 小野 穰氏（瀬戸市新世紀工芸館）  
 非常勤 近藤ひとみ、非常勤 青井すみれ

テーマ	月日	参加者数
コンポート皿	7月22日（土）	18人
八角皿	8月26日（土）	20人
長皿	9月23日（土）	35人
四方鉢	10月28日（土）	18人
ラーメンの器	11月25日（土）	27人
雲形皿	2024年2月24日（土）	18人



絵付け体験



参加者作品

## ②-4 おでかけ陶芸館 in 長久手市文化の家

長久手市と連携し、当館陶芸指導員が「長久手市文化の家」に赴き、「土」などをテーマにしたワークショップを行った。「焼かない」体験を考案し、再開館後の陶芸館の活動や、焼成設備がない環境での出張講座への対応のために実験的な意味合いも含め開催した。

会場 長久手市文化の家 美術室  
 参加料 無料  
 担当 水間芽利氏（長久手市文化の家）  
 非常勤 中島聡子、  
 非常勤 吉田庄吾、  
 非常勤 高阪実由、  
 非常勤 青井すみれ



A4 チラシ

テーマ	実施日	参加者数
土で描く！	7月9日（日）	15人
地層をつくろう	8月13日（日）	22人
陶片で作るモザイクアート	9月10日（日）	18人
デザイン色々!!芙蓉手ってなあに	10月8日（日）	18人
オープン粘土でオーナメント	11月12日（日）	22人
石膏取り体験	12月10日（日）	17人
クレイアニメをつくってみよう	2024年1月14日（日）	20人
ミニ土壁を作ろう	2024年2月11日（日）	16人
たちあがれ！粘土	2024年3月10日（日）	23人



オープン粘土でオーナメント



デザイン色々!!芙蓉手ってなあに



石膏取り体験



クレイアニメをつくってみよう



ミニ土壁を作ろう



たちあがれ！粘土

## 10 地域連携

### (1) 愛知県内

#### ① 瀬戸市および瀬戸市内の団体との連携事業

詳細は 62 頁「現代陶芸魅力発信事業」を参照

#### ② 特定非営利活動法人やきもの文化と芸術振興協会との連携事業

第 1 回やきもの大学「伝統工芸の楽しみ方」

日 時 5 月 3 日 (水・祝) 13:30-15:00

講 師 総長 伊藤嘉章

会 場 本館地下講堂

参加者数 36 人

#### ③ 瀬戸いけばな協会との連携

特別展のオープンに合わせて、同協会の会員に生け込みを依頼し、展示室入口前に「お迎え花」を設置した。花器は、陶芸作家の加藤清之氏の作品を用いた。

特別展 「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ－」

担 当 坂野 眸氏 (池坊)



#### ④ 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画

詳細は 53 頁を参照

#### ⑤ 瀬戸陶芸協会・常滑陶芸作家協会合同展

『瀬戸×常滑 陶芸 ー同じ時をつくるー』

詳細は 17 頁を参照

## (2) 広域

### ① 陶磁ネットワーク会議

公立の陶磁専門館がネットワークを組み、協働することを目的として2008年度に設立された。毎年1回、連絡会議を開催して情報交換等を行っている。

2023年度は監事館の山口県萩美術館・浦上記念館において「展示照明について」をテーマに会議が開催された。

開催日 5月23日(火)、24日(水)

加盟館 愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館  
佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、  
福井県陶芸館、山口県立萩美術館・浦上記念館

### ② 愛知県博物館協会

愛知県内に所在する博物館施設が、相互の連絡協力を密にし、事業の振興を図ることを目的として1964年に設立された。2023年4月現在の加盟館は、計116館である。

2023年度は、2022年度に引き続き、当館長は会長、当館は、会長館及び事務局として在籍、当館職員が事務局員及び実行委員として運営を行った。主な事業として、理事会・総会を始め、記念講演会や各種研修、HP運営や印刷物(協会報『愛知の博物館』、『おでかけガイド』)の発行、非常時連絡訓練等を行った。

### ③ 東海三県博物館協会

愛知県博物館協会、岐阜県博物館協会、三重県博物館協会の加盟館が連携や交流することを目的とする。2023年度は、当館が愛知県博物館協会の理事長館として本協会の愛知県事務局を務め、研究交流会に参加した。

<研究交流会>

「社会の変化と博物館の未来」グループセッション、トークテーマ1「財源の確保」、  
トークテーマ2「人と博物館の未来」、トークテーマ3「これまでとこれからの資料収集」

開催日 11月14日(火)

会場 鳥羽水族館4階レクチャールーム(三重県)

### ④ その他の当館が加盟する博物館関連団体

全国美術館連絡協議会

東海地区博物館連絡協議会(2023年度理事長館、事務局を担当)

## 11 現代陶芸魅力発信事業

2021年度から2025年度末まで実施する「現代陶芸魅力発信事業」は、当地の文化財である陶製狛犬や若手作家の現代陶芸作品展示を行い、それらを活用した教育普及活動を実施し、特に若年層にむけて広く陶磁作品の魅力を発信するものである。

現代陶芸魅力発信事業の一環として、陶祖・藤四郎を祀る陶彦社の祭礼「陶祖まつり」において、瀬戸市まるっとミュージアム課と連携し、各種企画を実施した。また、瀬戸市内の団体や企業と連携し、陶製狛犬ガイドの育成を行い、市内のイベントにおいて発信を行った。

### (1) 陶製狛犬の市内展示及びその関連事業

現代陶芸魅力発信事業の一環として、陶祖・藤四郎を祀る陶彦社の祭礼「陶祖まつり」において、瀬戸市まるっとミュージアム課と連携し、各種企画を実施した。また、瀬戸市内の団体や企業と連携し、陶製狛犬ガイドの育成を行い、市内のイベントにおいて発信を行った。

#### ① 市内展示 1

陶祖まつり「愛知県陶磁美術館所蔵こま犬展」  
日 時 ①4月15日(土)、16日(日)  
会 場 瀬戸蔵1階ホール  
担 当 館長 佐藤一信、学芸員 佐久間真子、学芸員 鮫島由佳

〈①と同時開催の関連事業〉

- ・「こま犬ワークショップ」  
会 場 瀬戸蔵2階、4階多目的ホール  
参加者数 15日9人、16日14人
- ・「ひるまのナイトミュージアム」  
会 場 瀬戸市文化センター1階ホール  
参加者数 15日146人、16日414人

#### ② 市内展示 2

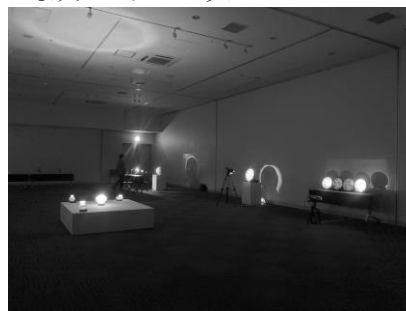
日 時 10月28日(土)  
会 場 瀬戸市文化センター1階ホール  
担 当 学芸員 佐久間真子、  
学芸員 鮫島由佳

#### ③ 市内展示 3

日 時 2024年2月22日(木)  
-3月24日(日)  
会 場 パルティ瀬戸1階  
担 当 学芸員 佐久間真子、学芸員 鮫島由佳



こま犬ワークショップ



ひるまのナイトミュージアム



市内展示 1



市内展示 2



市内展示 3

## (2) 陶製狛犬ガイドの育成と発信事業

陶製狛犬の魅力発信の地域への定着と継続性を狙い、瀬戸市内を中心に募集した小中学生で構成した陶製狛犬ガイドの育成と発信を行った。

発信日 ①9月9日(土) 10:05- 会場: 宮前広場

②10月28日(土) 会場: 瀬戸市文化センター1階ホール

③2024年3月18日(月)、19日(火)、20日(水・祝) 放送

※③は、尾張東部放送(ラジオサンキュー)番組「こまいぬ調べ隊と狛犬めぐり」として放送

担当 学芸員 佐久間真子、学芸員 鮫島由佳



ガイド育成



9月披露



10月披露



2024年3月披露

## 12 魅力向上推進事業

2021年度、2022年度に引き続き、敷地内の魅力向上のためにサインリニューアルを実施した。

2023年度実施のサインリニューアル

- ・復元古窯前サイン2か所の撤去、新規新設
- ・市道一号窯跡前サイン2か所の撤去、新規新設
- ・古窯館内サイン2か所の改修
- ・陶芸館周辺の案内サイン4か所の改修



復元古窯前の新規設置サイン



市道一号窯跡前サイン2か所の改修



陶芸館周辺の案内サイン（大駐車場～陶芸館）



陶芸館周辺の案内サイン（陶芸館～各所）



陶芸館周辺の案内サイン（陶芸館～各所）



## 13 広報活動

当館では、「愛知県陶磁美術館条例」で掲げられた陶磁文化の振興等の目的を達成するため、県内外の多くの人々に館の魅力を伝え、来館を呼び込むべく広報宣伝業務を行っている。職員による公式 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）アカウントの運営をはじめ、オンライン上での広報手法を取り入れるなど、各種取り組みを実施した。

### （1）陶磁美術館魅力発信事業：陶磁美術館公式 SNS の運営

「陶磁美術館 SNS アクションプラン」に基づき、陶磁美術館公式 SNS（X(旧 Twitter)・Instagram・Facebook・YouTube）の運営を行った。

#### ① X(旧 Twitter)（2018 年度開始）

頻度：休館日を除く毎日 1 度投稿。（臨時投稿も可）  
担当：館職員 28 名、文化芸術課職員 1 名による交代制。

#### ② Instagram（2018 年度開始）

頻度：3 日に 1 度投稿（臨時投稿も可）  
担当：職員 10 名による交代制。2021 年度から広告も出稿（下記 13（4）参照）

#### ③ Facebook（2012 年度開始）※

Instagram と連動させて同時投稿を行う。

#### ④ YouTube（2012 年度開始）※

広報宣伝ツールとしてではなく、主に陶芸館事業における動画教材の公開ツールとして活用。今年度は学校団体向けプログラムの紹介動画などを掲載した。

※開設当初は、2011 年度実施の広報委託事業「やきもの PR 隊」の公式 Facebook 及び YouTube として運用開始。その後活動終了に伴い当館公式へ移行。



### （2）広報印刷物の製作及び設置依頼

東海地域を中心に日本全国の美術館・博物館や、図書館等の文化施設、観光施設、イベントなどにポスター、チラシを送付し、設置依頼を行った。主要な広報先などを随時整理し、より効果的な発送計画を立てるなどの工夫を行っている。

### （3）公式 WEB ページの運営

愛知県陶磁美術館の施設案内、所蔵品紹介、展覧会、イベント情報などを掲載し、利用者に向けて、適時に情報提供を行った。また、Coubic by STORES による陶芸体験予約を継続して行った。

#### (4) オンライン広告の利用

##### ① Instagram 広告の概要

- ①-1 伝統工芸のチカラ 4月15日(土) - 6月18日(日) 配信
- ①-2 コレクションズ・ラリー 2024年2月1日(木) - 3月2日(土) 配信



Instagram 広告 (左: 「伝統工芸のチカラ」 右「コレクションズ・ラリー」)

##### ② PR TIMES 出稿

- ②-1 コレクションズ・ラリー 2024年1月10日(水) 配信

#### (5) その他の有料広告

##### ① リニモ駅構内広告

特別展及び企画展のB1・B2版ポスターを藤が丘、長久手古戦場、愛・地球博記念公園、陶磁資料館南、八草の5駅に掲出。(2023年6月まで)

##### ② リニモ車内放送

陶磁資料館南駅での下車アナウンスの際に、施設情報を放送。

##### ③ ナゴヤアートニュース掲載

- ・4-5月号: 「未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ」展
- ・6-7月号: 「未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ」展
- ・8-3月号: 改修工事のため休館情報

##### ④ ラジオサンキュー放送及び出演

- ・特別展、企画展、各種イベントの紹介(毎週水曜日1分枠)
- ・毎月第4木曜日の生放送出演

## (6) 休館中の取組 AICHI X TECH (アイテクロステック) 事業「とうじみてミル?」

愛知県と企業等との連携で、県庁内の各所属が抱える行政課題について ICT を活用して、その解決を目指す事業「AICHI X TECH」に参加し、「長期休館中もファンと繋がり、ファンを楽しませたい」というテーマで実証事業者を募集した。

合同会社 Mimir による所蔵品の高精細画像を用いた 3D モデル及びそれらを用いた動画を各 10 点作成し、当館公式 SNS 等で発信した。



プラットフォーム Sketch Fab での発信



公式 SNS での発信

## 14 事業活性化の取組

### (1) 陶磁美術館の活性化計画（2021年度～2023年度）

2018年度、2019年度と「陶磁美術館の活性化」が「しなやか県庁創造プログラム推進プロジェクトチーム」における重点項目となった。

そこで検討した「SNSを活用した効果的な情報発信」「陶芸館の利用促進」「展示事業の充実」の3つの取組を主な柱として、これを具体化し、施設の活性化に取り組むため、「行動目標」と「数値目標」からなる計画を策定した。

### (2) 2023年度の「取組」及び「行動目標」

#### ① 取組1 SNSを活用した効果的な情報発信

##### 行動目標1 魅力発信検討会議の実施

- ・魅力発信検討会議において専門家から提案されたアクションプランに基づき、陶磁美術館全体の魅力をSNSツールの特性に応じた内容で効果的に発信。（2020年度から）

#### ② 取組2 陶芸館の利用促進

##### 行動目標2 団体割引制度や後払い制度の実施

- ・施設利用料の改定、団体利用における割引制度を導入（2021年4月から）
- ・旅行会社の後払い制度（陶芸館クーポン）を導入（2021年4月から）

##### 行動目標3 オンライン予約制度の検討

- ・作陶体験のインターネット予約申込みを実施（2020年度から）
- ・上記予約枠を拡大（2021年4月から）

##### 行動目標4 手軽な作陶コースの開設

- ・初心者向けの「はじめての陶芸館」を開設し、毎月開催している。（2020年度から）

#### ③ 取組3 展示事業の充実等

##### 行動目標5 現代陶芸魅力発信事業の実施

- ・本館ロビーに設置した狛犬インスタレーション展示と本館ロビー全体に映像を照射して、光と音の演出でプロジェクションマッピングをナイトミュージアム開催に合わせて実施した。（2022年8月）
- ・狛犬インスタレーション展示に関連した、エドューケーター等による鑑賞指導や作陶指導を合わせたイベントを実施した。（2022年8月～2024年3月）
- ・陶製狛犬の市内展示及びその関連事業を実施した（2023年4月）

##### 行動目標6 魅力向上推進事業の実施

- ・敷地内外・施設内の案内表示の統一的なデザイン及び設置場所を2021年度に検討。
- ・案内表示デザインプランに基づき、案内表示を設置している。  
2022年度は、県道209号線沿いの西側入口付近に8メートルの高さの案内看板を設置。  
2023年度は、陶芸館、古窯館周辺の計9か所の案内看板をリニューアル。

##### 行動目標7 南館展示内容等の検討

- ・南館1階の＜愛知のやきもの＞展示をリニューアルし、産業陶磁の一部を本館に移設。

##### 行動目標8 常設展示の見直し

- ・本館の常設展示内容について、より魅力的な内容となるよう見直し検討をする。（2021年度から）

※2023年6月19日から長寿命化改修工事等のため休館しており、上記取組は休館前までのものである。

### (3) 評価基準

取組	評価基準（数値目標）	2023年度	2022年度	2021年度
① SNS等を活用した効果的な情報発信	Instagramフォロワー数 (2023年度:1,500人増)	4,096人	3,787人	2,612人
	Xフォロワー数 (2023年度:1,200人増)	2,699人	2,359人	1,707人
② 陶芸館の利用促進	陶芸館の団体利用者数 (2023年度:6,600人減)	1,005人	4,954人	7,669人
	陶芸館関連イベントの開催数 (2023年度:20回/年)	54回	30回	32回
③ 展示事業の充実	来館者数 (10万人/年)	12,966人	76,674人	81,282人
	展覧会アンケートによる満足度調査(90%以上の割合)	85.7%	85.2%	89.0%

※2023年度の利用者数及び来館者数については6/18までの人数(2023年6月19日から長寿命化改修工事等のため休館)

### (4) 新たな活性化計画について

上記活性化計画の期間が満了することから、行動目標や数値目標等に必要な見直しを加えた上で、第二期計画(計画期間:2024年度-2026年度)が策定された。

## 15 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

2023年度は、長寿命化改修工事等による長期休館前までの期間、「陶磁美術館の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、館内の対策を実施した。

## 16 長寿命化改修工事等に伴う休館について

陶磁美術館は、「特定天井脱落防止対策工事」及び「長寿命化改修工事」に伴い、約1年9か月間休館(2023年月6月19日から2025年3月31日まで)。2025年4月にリニューアルオープンする予定である。なお、陶芸館については、2024年11月1日から先行して再開する。

※改修工事の主な内容

- ・建築工事(特定天井脱落対策、屋根・外壁改修、床・壁修繕、トイレ改修など)
- ・電気設備工事(来客エリアのLED化など)
- ・機械設備工事(空調設備改修など)、エレベーター改修工事

休館中には、出張展示や出張陶芸事業、所蔵品データベース公開準備等を行い、公式WEBページやSNSで発信する。(2023年度事業参照)

### Ⅲ 参考資料

#### 1 組織及び事務分掌

##### (1) 組織

愛知県行政組織規則（抜粋）

（陶磁美術館）

第 19 条第 1 項 愛知県陶磁美術館に次の課を置く。

総務課	学芸課
-----	-----

2 前項の各課の分掌事務は、下記のとおりとする。

総務課

- (1) 文書及び公印の管守に関すること。
- (2) 職員の人事及び福利厚生に関すること。
- (3) 予算、会計及びその他庶務に関すること。
- (4) 建物、附属設備及び物品の保全管理に関すること。
- (5) 陶芸実習室及び展示室の利用に関すること。
- (6) その他学芸課の主管に属さないこと。

学芸課

- (1) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存及び展示に関すること。
- (2) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の調査研究に関すること。
- (3) 陶磁器に関する知識の向上及び普及に関すること。
- (4) 陶磁器に関する資料の刊行その他広報に関すること。

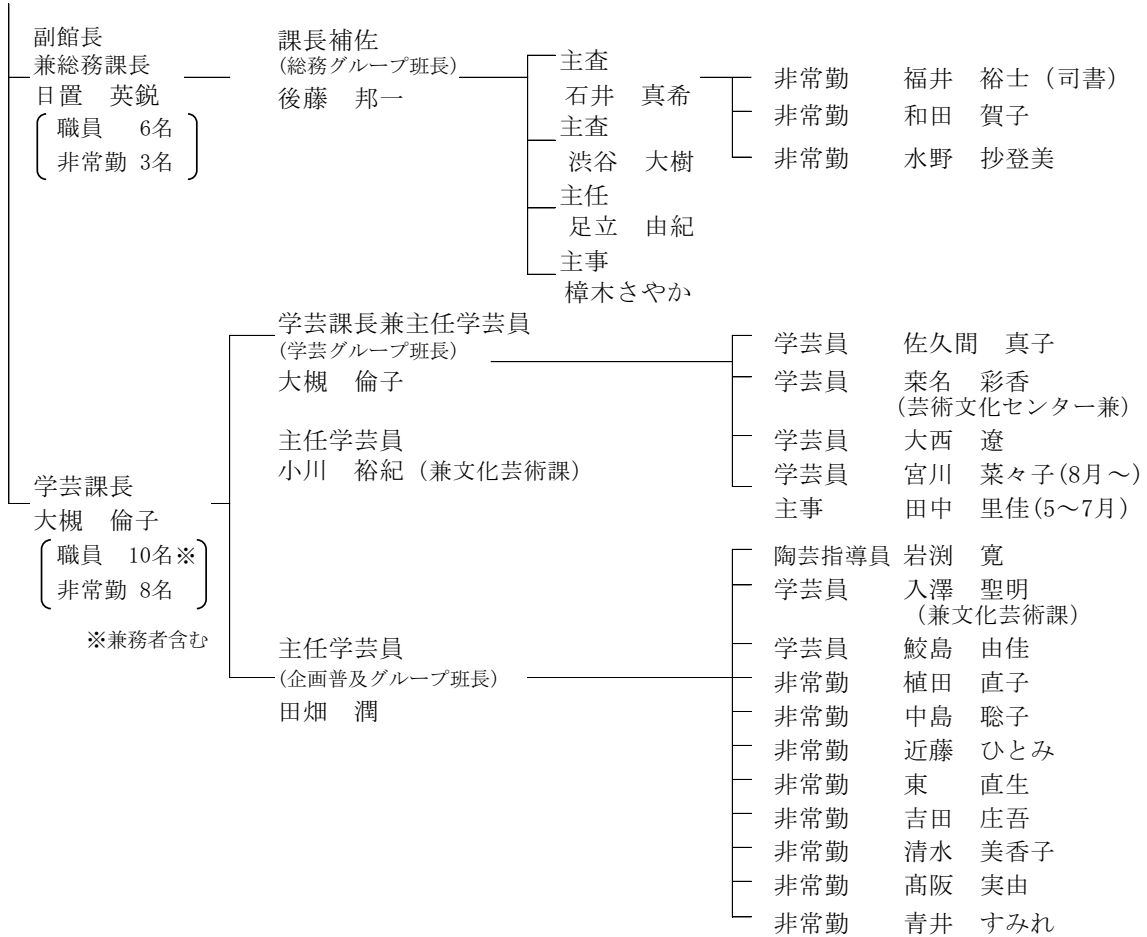
##### (2) 職員等定数（2023 年度）

職員定数 16 名 現員数 16 名（正規 16）

非常勤職員数 12 名 現員数 12 名（総長を含む）

(3) 組織図 (2023 年度)

総長 伊藤 嘉章  
 |  
 館長 佐藤 一信  
 |  
 副館長 日置 英鋭



2 決算額 (2023 年度)

(単位：千円)

歳 入		歳 出	
陶磁美術館使用料	4, 453	職員給与	112, 993
観覧料収入	1, 994	管理事務費 〔光熱水費 業務委託 施設維持管理費〕	156, 825
行政財産使用料	118		
実習室等使用料	2, 341		
諸収入	141, 759	事業費 〔展覧会開催費 普及啓発事業費〕	36, 241
宝くじ収入	140, 000		
図録販売等収入	1, 759		
国庫支出金	717	施設設備整備費	17, 680
文化振興基金繰入金	717		
県債	2, 000		
一般財源	174, 093		
歳入合計	323, 739	歳出合計	323, 739

### 3 愛知県陶磁美術館運営会議（2023 年度）

#### （1）会議開催

日 時 2023 年 7 月 31 日（月）14:00—16:00  
 出席委員 伊藤委員、梶原委員、加藤委員、可児委員、川本委員、小林委員、  
 柴田委員、長井委員、中野委員、波多野委員、渡辺委員

#### （2）陶磁美術館運営会議開催要領

（目 的）

第 1 条 愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）の円滑かつ適正な運営に資するため、愛知県陶磁美術館運営会議（以下「運営会議」という。）を開催する。

（構成員）

第 2 条 運営会議の運営委員は、次の各号に掲げる者とし、愛知県陶磁美術館長（以下「館長」という。）が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 陶芸作家
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が必要と認める者

2 運営委員の任期は 2 年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（協議事項）

第 3 条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 常設展、企画展及び普及活動等に関すること。
- (3) その他必要と認める事項

（座長等）

第 4 条 運営会議に座長を置く。

2 座長は、愛知県陶磁美術館総長とする。

3 座長は、運営会議を主宰する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（顧問）

第 5 条 運営会議に顧問を置くことができる。

（運営会議）

第 6 条 運営会議は座長が招集する。

2 運営会議は、原則として公開するものとする。ただし、愛知県情報公開条例（平成 12 年愛知県条例第 19 号）第 7 条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して調査検討等を行う場合又は運営会議を公開することにより会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合であつて、座長が運営会議の一部又は全部を公開しない旨を決定したときは、この限りでない。

3 会議録及び会議資料は、5 年間保存する。

（事務）

第 7 条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

（その他）

第 8 条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

#### （3）愛知県陶磁美術館運営会議運営委員

（任期 2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日 運営委員の氏名は 2024 年 6 月 1 日現在）

区 分	氏 名	職 名
学識経験者	梶原 義実	名古屋大学大学院人文学研究科教授
	長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長
	小林 牧	東京国立博物館名誉館員・客員研究員
陶芸作家	波多野 正典	瀬戸陶芸協会会長
	柴田 正明	常滑陶芸作家協会会長
	安藤 工	公益財団法人美濃陶芸協会会長
県関係者	平松 利英	愛知県議会県民環境委員会委員長
	伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館総長
その他館長が必要と認める者	川本 雅之	瀬戸市長
	加藤 千晶	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)政策研究事業本部研究開発第 2 部(名古屋)兼観光戦略室副主任研究員
	可児 光生	美濃加茂市民ミュージアム館長
	中野 昭雄	愛知県陶磁器工業協同組合理事長
	渡辺 まゆみ	岩倉市立五条川小学校校長（小中学校長会推薦）

## 4 愛知県陶磁美術館資料委員会（2023年度）

### （1）会議開催

日 時 2023年11月13日（月） 14:00—16:00  
出席委員 唐澤委員、洲鎌委員、出川委員、長井委員

### （2）資料収集の方針及び関連例規

#### ①方針

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針とし、当面の収集目標を次のとおりとしている。

#### ア 日本陶磁の優品

日本陶磁史において、画期をなす時代の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。特にこの地域で花開いた猿投窯、瀬戸・渥美・常滑窯を中心に、古代・中世の重要文化財級の優品並びに桃山時代のバラエティに富んだ茶陶の優品、近世の名工や近代・現代の人間国宝等の代表作の収集に努める。

#### イ 外国陶磁の優品

海外の代表的な窯業地の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。

#### ウ 現代陶芸作品

国内外を代表する近代・現代の陶芸作品並びに当地域を中心とする中部地方の代表的陶芸作家の作品の収集に努める。

#### エ 陶磁史の基礎的資料

時代別・産地別に特徴を示す日本陶磁並びにこれに関連する外国陶磁資料の収集に努め館蔵品の充実を図る。

#### ②関連例規

- ・ 愛知県陶磁美術館資料委員会開催要領
- ・ 愛知県陶磁美術館資料購入要領
- ・ 美術品等取得基金管理要綱
- ・ 愛知県陶磁美術館資料取扱要領

### （3）愛知県陶磁美術館資料委員会委員

（任期 2023年4月1日～2025年3月31日）

氏 名	職 名
荒川 正明	学習院大学教授
唐澤 昌宏	国立工芸館長
洲鎌 佐智子	京都府京都文化博物館学芸課長
出川 哲朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長

## 5 利用者の状況

### (1) 年次別利用者一覧表

(単位：人)

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
1978年度	212	53,935		53,935	254	53,935
1979年度	292	47,163		47,163	162	101,098
1980年度	307	48,867		48,867	159	149,965
1981年度	307	49,686		49,686	162	199,651
1982年度	306	48,586		48,586	159	248,237
1983年度	307	48,108		48,108	157	296,345
1984年度	306	49,984		49,984	163	346,329
1985年度	305	52,443		52,443	172	398,772
1986年度	306	71,882	14,700	86,582	283	485,354
1987年度	308	50,287	15,197	65,484	213	550,838
1988年度	305	48,046	15,328	63,374	208	614,212
1989年度	306	53,288	18,781	72,069	236	686,281
1990年度	306	44,990	20,745	65,735	215	752,016
1991年度	306	40,390	21,465	61,855	202	813,871
1992年度	307	39,886	24,643	64,529	210	878,400
1993年度	306	27,439	24,413	51,852	169	930,252
1994年度	298	77,701	38,983	116,684	392	1,046,936
1995年度	307	76,613	51,957	128,570	419	1,175,506
1996年度	305	68,831	57,184	126,015	413	1,301,521
1997年度	306	58,213	57,725	115,938	379	1,417,459
1998年度	307	73,903	53,033	126,936	413	1,544,395
1999年度	307	56,076	52,861	108,937	355	1,653,332
2000年度	306	43,121	50,644	93,765	306	1,747,097
2001年度	306	49,268	44,427	93,695	306	1,840,792
2002年度	305	39,898	46,701	86,599	284	1,927,391
2003年度	307	43,849	44,030	87,879	286	2,015,270
2004年度	308	38,824	36,971	75,795	246	2,091,065
2005年度	331	53,294	29,426	82,720	250	2,173,785
2006年度	306	41,257	35,534	76,791	251	2,250,576
2007年度	308	39,744	35,917	75,661	246	2,326,237
2008年度	307	34,782	35,558	70,340	229	2,396,577
2009年度	306	37,516	34,464	71,980	235	2,468,557
2010年度	306	50,746	35,946	86,692	283	2,555,249
2011年度	307	64,859	38,527	103,386	337	2,658,635

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
2012年度	307	60,394	42,281	102,675	334	2,761,310
2013年度	305	67,114	41,889	109,003	357	2,870,313
2014年度	306	68,702	43,679	112,381	367	2,982,694
2015年度	310	50,695	41,350	92,045	297	3,074,739
2016年度	306	44,811	34,348	79,159	259	3,153,898
2017年度	308	37,173	31,290	68,463	222	3,222,361
2018年度	305	46,544	26,900	73,444	241	3,295,805
2019年度	307	50,691	25,948	76,639	250	3,372,444
2020年度	275	33,615	15,853	49,468	180	3,421,912
2021年度	306	60,122	21,160	81,282	266	3,503,194
2022年度	306	54,217	22,457	76,674	251	3,579,868
2023年度	69	8,498	4,468	12,966	188	3,592,834
累 計	13,735	2,306,051	1,286,783	3,592,834		

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、4/11～5/17の間（陶芸館は5/31まで）休館

※2023年度は6/19から改修工事に伴う休館（2025/3/31まで）

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
2023年 4月	26	1,645	1,214	2,859	110	2,859
5月	27	3,444	1,930	5,374	199	8,233
※6月	16	3,409	1,324	4,733	296	12,966
7月	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-	-
10月	-	-	-	-	-	-
11月	-	-	-	-	-	-
12月	-	-	-	-	-	-
2024年 1月	-	-	-	-	-	-
2月	-	-	-	-	-	-
3月	-	-	-	-	-	-
2023年度計	69	8,498	4,468	12,966		

※6/18まで

(2) 月別利用者数 (2023 年度)

※6/18まで

(単位：人)

区 分	2023.4月	5月	6月※	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024.1月	2月	3月	合 計	
特 別 展 覧	個人 高・大学生	3	9	7									19	
	個人 一 般	133	325	232									690	
	障害者 高・大学生	0	0	0									0	
	障害者 一 般	25	55	33									113	
	団体 高・大学生	0	76	0									76	
	団体 一 般	0	0	0									0	
	リニモ 高・大学生	2	10	5									17	
	リニモ 一 般	77	204	161									442	
	割引者 高・大学生	1	9	2									12	
	割引者 一 般	119	371	283									773	
	計	360	1,059	723									2,142	
	有 料 観 覧 者	個人 高・大学生												0
		個人 一 般												0
		障害者 高・大学生												0
障害者 一 般													0	
団体 高・大学生													0	
団体 一 般													0	
リニモ 高・大学生													0	
リニモ 一 般													0	
割引者 高・大学生													0	
割引者 一 般													0	
計		0	0	0									0	
常設展 個人 高・大学生		5	6	3									14	
常設展 個人 一 般		203	104	61									368	
常設展 団体 高・大学生		0	0	0									0	
常設展 団体 一 般	23	56	28									107		
計	231	166	92									489		
クーポン	個人	0	0	0									0	
	団体	0	0	0									0	
	計	0	0	0									0	
パートナーシップ	28	101	67									196		
合 計	619	1,326	882									2,827		
無 料 観 覧 者	学校行事 小学生	0	37	182									219	
	学校行事 中学生	0	10	47									57	
	学校行事 高校生	0	13	0									13	
	計	0	60	229									289	
	招待券	352	590	974									1,916	
	中学生以下	37	50	46									133	
	障害者常設展	23	22	9									54	
	企画展観覧者	342	1,042	969									2,353	
	計	754	1,704	1,998									4,456	
	合 計	754	1,764	2,227									4,745	
観覧イベント	272	354	300									926		
観覧者等合計	1,645	3,444	3,409									8,498		
陶 芸 館	中学生以下	224	771	351									1,346	
	一 般	915	1,061	794									2,770	
	計	1,139	1,832	1,145									4,116	
	中学生以下	24	46	138									208	
	一 般	28	52	41									121	
	計	52	98	179									329	
陶芸館イベント	23	0	0									23		
陶 芸 館 合 計	1,214	1,930	1,324									4,468		
総 計	2,859	5,374	4,733									12,966		

(3) 展覧会別観覧者状況一覧(特別展・企画展) (2000年度以降)

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
2000	万国博覧会と近代陶芸の黎明	2000.4.8~5.21	38日	7,800人	205人
	加藤舜陶古陶磁コレクション展 —その作品とともに—	2000.5.27~7.9	38	6,444	170
	煎茶とやきもの —江戸・明治の中国趣味—	2000.9.23~11.26	56	10,421	186
2001	ドイツ陶芸の100年 —アール・ヌーヴォーから現代作家まで—	2001.4.1~5.20	43	11,082	258
	尾張の茶道具 —瀬戸・常滑の名工たちをめぐって—	2001.9.8~10.28	44	8,135	185
	ルネサンスの精華 マジヨリカ名陶展 —イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵—	2001.11.3~12.24	45	10,103	225
2002	アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 —自由の国のオブジェと器—	2002.4.13~6.30	68	9,396	138
	スイスの陶芸	2002.9.21~11.24	56	7,920	141
	ノベルティ・デザイン —光和陶器・デザインの軌跡—	2003.2.1~3.30	50	6,810	136
2003	土と炎の世紀 —ノリタケチャイナと製陶王国の100年史—	2003.4.5~6.8	56	9,019	161
	桃山陶に魅せられた七人の陶芸家 —陶片に学んだ技と美—	2003.6.14~8.24	62	12,175	196
	歴史の風景 —遺跡からのメッセージ—	2003.8.30~11.16	68	7,609	112
2004	近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会展	2004.4.3~6.27	74	6,884	93
	土と炎の芸術 —世界の土器—	2004.7.3~11.7	110	8,909	81
	洛陽の夢 —唐三彩展	2004.11.16~12.23	33	9,400	285
	桃山陶の華麗な世界	2005.3.21~3.31	11	2,432	221
2005	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	2005.3.21~3.31	11	1,560	142
	桃山陶の華麗な世界	2005.4.1~9.25	178	35,814	201
	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	2005.4.1~9.25	178	21,169	119
	土から生み出すかたち 造形の軌跡 加藤清之展	2005.10.29~12.25	50	5,030	101
2006	陶器が語る来世の理想郷 中国古代の暮らしと夢 —建築・人・動物—	2006.2.4~3.26	44	6,761	154
	木村定三コレクションの茶陶	2006.4.8~6.18	62	8,870	143
	発掘されたムラと宝 —いにしへの暮らしと技を探る—	2006.6.24~9.24	80	7,372	92
	日本のわざと美 —重要無形文化財とそれを支える人々—	2006.10.7~11.5	26	8,410	323
2007	陶磁のこま犬百面相	2006.11.11~2007.1.21	55	6,084	111
	ベルシアのやきもの —8000年の美と伝統—	2007.1.27~3.31	55	8,009	146
	食卓の華 —世界に愛された日本の洋食器100年—	2007.4.7~6.10	56	8,211	147
	うつわ百花繚乱 —尾張の食器文化—	2007.4.7~6.10	92	11,981	130
2008	煎茶陶芸の美と伝統 —人間国宝 三代山田常山への道—	2007.10.6~11.25	44	6,818	155
	幻の壺 —本多静雄コレクションの古陶磁—	2007.12.1~2008.2.11	56	5,600	100
	新進陶芸家による「東海現代陶芸の今」	2008.2.16~3.30	38	4,503	119
	窯変の美 —鎌倉・室町の名陶—	2008.4.5~6.1	50	7,757	155
2009	李吉秀コレクション —韓国、日本、中国、東南アジアのやきもの—	2008.4.12~6.1	44	6,363	145
	中国古代の建築と暮らし —茂木計一郎コレクション—	2008.6.7~8.17	62	6,032	97
	世界の現代陶芸 —愛知県陶磁資料館コレクション—	2008.8.23~10.19	50	4,906	98
	海のシルクロードの出発点”福建” —沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—	2008.10.25~2009.1.12	62	7,552	122
2010	やきもの収集の旅 —愛知県陶磁資料館コレクションの軌跡—	2009.1.17~3.29	62	6,072	98
	生誕90年 河本五郎展	2009.4.4~5.31	50	6,308	126
	美在掌中 中国の小さなやきもの	2009.6.6~7.26	44	5,299	120
	2009 アジア現代陶芸 —アジア(日・中・韓・台湾)の現代陶芸—	2009.8.1~9.27	50	3,347	67
2011	志野・黄瀬戸・織部のデザイン/桃山時代のやきものに関する展示	2009.10.3~11.29	50	8,081	162
	ジャパニーズ・デザインの挑戦 産総研に残る試作とコレクション	2009.12.5~2010.3.28	92	7,079	77
	名古屋の楽焼 八事窯 中村道年へのあゆみ	2010.4.3~6.27	74	8,909	120
	1000年前のハローワーク —見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学—	2010.7.3~9.26	74	7,131	96
2012	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝 —清風興平・宮川香山から板谷波山まで—	2010.10.2~11.28	50	8,047	161
	陶芸家・辻清明の眼 —作品とコレクション—	2010.12.4~2011.1.30	43	4,506	105
	阿蘭陀焼: あこがれのプリントウェア —海を渡ったヨーロッパ陶磁—	2011.2.5~3.27	44	4,930	112
2013	古陶の譜 中世のやきもの —六古窯とその周辺—	2011.4.2~5.22	44	5,315	121
	アンデス・メソアメリカ文明展 —古代の暮らしと聖なる動物たち—	2011.5.28~7.31	56	9,218	165
	東海現代陶芸 —思考する新世代—	2011.8.6~10.2	50	5,180	104
	開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生	2011.10.8~12.11	56	13,669	244
2014	日本人の愛した中国陶磁 龍泉窯青磁展	2012.1.21~3.31	61	9,853	162

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
2012	彫刻を聞き、土を語らせる 西村陽平展／西村陽平が出会った子どもたち展	2012. 4. 7～5. 27	44 日	4,324 人	98 人
	華麗なる美の競演 初期伊万里・柿右衛門・鍋島	2012. 6. 2～7. 22	44	9,825	223
	戦国のあいち 一信長の見た城館・陶磁・世界ー	2012. 7. 28～9. 30	56	6,846	122
	アール・デコ 光のエレガンス	2012. 10. 6～12. 24	69	10,615	154
2013	陶家の蒐集と制作 I 清水六兵衛家ー京の華やぎー	2013. 1. 12～3. 24	62	9,366	151
	茶人のあそび心 形物香合番付の世界	2013. 4. 20～5. 26	32	5,757	180
	ー日本・中国・韓国ー 陶磁の名品、ここに集う	2013. 6. 1～7. 28	50	11,122	222
	2013アジア現代陶芸 ー新世代の交感展	2013. 8. 3～9. 29	50	3,813	76
2014	泥象 鈴木治の世界	2013. 10. 12～12. 23	63	5,956	95
	モダニズムと民藝 北欧のやきもの:1950's-1970's	2014. 1. 11～3. 23	62	11,734	189
	桃山・江戸の華やぎ 古唐津・古武雄	2014. 4. 12～6. 15	56	7,792	139
	魅惑の陶製人形～ノベルティ、人物備、はにわ、土人形、フィギュリン～	2014. 6. 21～8. 17	50	9,702	194
2015	高麗・李朝の工芸 ー陶磁器、漆器、金属器ー	2014. 8. 23～10. 26	56	8,619	154
	川喜田半泥子物語 ーその芸術的生涯ー	2014. 11. 1～12. 26	48	8,346	174
	愛知ノート ー土・陶・風土・記憶ー	2015. 1. 10～3. 15	56	5,072	91
	耀きの静と動 ポヘミアングラス	2015. 4. 11～5. 24	38	8,289	218
2016	鯉江良二展 ー土に還る それ以前・それ以後ー	2015. 6. 6～8. 2	50	4,887	98
	ギリシア陶器:「古典」の誕生ーアッティカ、ローマからセーヴル、ピカソまでー	2015. 8. 8～10. 12	59	6,704	114
	タイル 近代都市の表面	2015. 10. 17～12. 23	58	4,633	80
	煎茶 ー山本梅逸と尾張・三河の文人文化ー	2016. 1. 16～3. 27	62	6,473	104
2017	沖繩の工芸 ー琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器ー	2016. 4. 16～6. 19	56	6,371	114
	弥生への旅 ー朝日遺跡 2000年前のキャラヴァンサライー	2016. 7. 2～8. 28	50	5,084	102
	人が大地と出会うとき	2016. 9. 10～10. 23	38	4,224	111
	くらしをうつす ー郷土の土人形展ー	2016. 11. 3～12. 4	28	2,101	75
2018	ヘレンド ー皇妃エリザベートが愛したハンガリーの名窯ー	2017. 1. 7～3. 26	68	7,914	116
	瓦万華鏡 ～社会、地域、心をつなぐ～	2017. 4. 15～6. 25	62	4,159	67
	今右衛門の色鍋島	2017. 7. 1～8. 27	50	8,535	171
	2017アジア現代陶芸展	2017. 8. 31～10. 22	46	2,799	61
2019	染付:青繪(あおえ)の世界	2017. 11. 3～2018. 1. 14	56	4,686	84
	瀬戸陶芸の黎明	2018. 4. 14～6. 17	56	5,124	92
	知られざる古代の名陶 猿投窯	2018. 6. 30～8. 26	50	5,370	107
	THE YUNOMI 湯のみ茶碗	2018. 9. 1～10. 21	44	3,962	90
2020	瀬戸ーかく焼き繋ぎ	2018. 10. 27～12. 16	44	3,819	87
	愛知県陶磁美術館の受贈外国陶磁コレクション選	2019. 1. 12～3. 24	62	4,026	65
	黄金の地と南の海から ー東南アジア陶磁コレクションー	2019. 4. 13～2019. 6. 16	57	4,755	83
	インダス文明への道 ー栗田功コレクションを中心にー	2019. 6. 29～8. 18	44	5,840	133
2021	川勝コレクション鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	2019. 8. 24～10. 20	50	6,329	127
	愛知やきものセレクション ー県指定文化財の陶磁器ー	2019. 11. 2～12. 22	44	3,593	82
	木村定三コレクションの文人趣味と煎茶 ーこだわりの遊びー	2020. 1. 11～3. 22	62	4,311	70
	異才 辻晋堂の陶彫 ー「陶芸であらざる」の造形からー	2020. 5. 19～6. 21	30	2,028	68
2022	The 備前 ー土と炎から生まれる造形美ー	2020. 8. 8～9. 27	44	4,634	105
	YAYOI・モダンデザイン ーニッポンの美、ここに始まるー	2020. 10. 10～12. 13	56	4,905	88
	日本陶磁の源・陶邑窯 ー猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁ー	2021. 1. 9～3. 21	62	4,381	71
	海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～	2021. 4. 10～6. 13	56	6,689	120
2023	水滴 小さき陶芸 ー大島国康コレクションを中心にー	2021. 6. 26～9. 26	80	5,203	65
	華*花 ー四季の花と中国陶磁史ー	2021. 10. 9～12. 12	56	6,438	115
	昭和レトロモダン ー洋食器とデザイン画	2022. 1. 8～3. 21	63	6,402	101
	酒のうつわーその美、こだわり…	2022. 4. 9～7. 3	75	5,191	69
2024	ホモ・ファーベルの断片ー人ともものづくりの未来ー	2022. 7. 16～10. 2	68	4,929	72
	平安のやきものーその姿、うつろいゆく	2022. 10. 29～2023. 1. 15	60	4,103	68
	アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで	2023. 1. 28～3. 26	50	16,092	322
2025	未来へつなぐ陶芸ー伝統工芸のチカラー	2023. 4. 15～6. 18	57	4,650	82

## 6 沿革

- 1972年 2月 10日 県は、県政 100 年記念事業として基本計画を策定し、具体的建設計画を発表する。建設予定地を瀬戸市大字山口字南山地内に決定する。
- 4月 1日 愛知県商工部（工業振興課）に「建設係」を設置し、建設事務に当たる。
- 6月 20日 「愛知県陶磁資料館（仮称）建設会議（構成員 30 人）を設置し、第 1 回会議を開催する。
- 1973年 3月 31日 瀬戸市大字山口字南山に建設予定地 11 万平方メートル余を買収する。
- 6月 5日 基本計画を立案・策定する。
- 1975年 1月 22日 進入路・駐車場造成工事に着工する。
- 1976年 1月 31日 同上 竣工する。
- 12月 25日 産業展示棟（南館）建設工事に着工する。
- 1977年 4月 1日 愛知県陶磁資料館（本館及び付属施設）建設事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
- 12月 23日 本館及び付属施設建設工事に着工する。
- 1978年 3月 20日 産業展示棟（南館）建設工事竣工する。面積 1,620.74 平方メートル。
- 3月 29日 愛知県陶磁資料館条例（S53.3.29 愛知県条例第 7 号）が公布される。
- 4月 1日 愛知県陶磁資料館（産業展示等）の所管事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
- 土地 112,335.20 平方メートルが商工部から所管替えとなる。
- 5月 26日 愛知県陶磁資料館規則（S53.5.26 愛知県教育委員会規則第 5 号）が公布される。（S53.6.1 施行）
- 6月 1日 産業展示棟（南館）開館記念式典を挙げる。開館記念特別展「日本の陶磁」同企画展「明治の陶器」開会式
- 1979年 3月 20日 本館及び付属施設建設工事竣工する。面積 5,703.23 平方メートル。
- 3月 31日 農地林務部から土地 104,743.00 平方メートルが所管替えとなる。
- 4月 1日 愛知県陶磁資料館「かい」として発足する。
- 7月 20日 南館から愛知県青少年公園まで遊歩道竣工する。
- 10月 13日 本館開館記念式典を挙げる。本館開館記念特別展「東洋の陶磁」開会式
- 1981年 3月 27日 復元古窯大窯、同 3 連房式登り窯並びに覆屋（面積 99 平方メートル）竣工する。
- 11月 26日 財団法人東海財団・㈱東海銀行から県民茶室「陶翠庵」の寄贈を受ける。面積 148.23 平方メートル。
- 1982年 12月 4日 財団法人東海財団から「西館」の寄贈を受ける。面積 232.75 平方メートル。
- 1983年 8月 3日 皇太子殿下、同妃殿下が当館を御視察になる。
- 1986年 3月 20日 陶芸実習施設「陶芸館」竣工する。面積 469.74 平方メートル。
- 4月 12日 陶芸館開館記念式典を挙げる。
- 1987年 6月 11日 入館者が 50 万人を突破する。
- 10月 9日 開館 10 周年記念特別展「日本陶磁絵巻」開会式
- 1989年 5月 31日 愛知県土地開発基金から土地 60,297.15 平方メートル取得する。
- 7月 1日 愛知県陶磁資料館拡充整備検討会議設置
- 1990年 7月 27日 皇太子殿下が当館を御視察になる。
- 12月 5日 増築敷地造成工事（一次）に着工する。
- 1991年 3月 27日 愛知県陶磁資料館規則（S53.5.26 愛知県教育委員会規則第 5 号）を廃止する規則が公布される（H3.4.1 施行）。愛知県陶磁資料館規則（H3.3.27 愛知県規則第 22 号）が公布される（H3.4.1 施行）。

- 4月 1日 愛知県陶磁資料館の所管事務が愛知県教育委員会（文化財課）から愛知県総務部文化振興局（企画課）に所管替えとなる。
- 8月 8日 増築敷地造成工事（二次）に着工する。
- 10月 16日 増築工事に着工する。
- 1992年 9月 29日 陶磁資料館古窯上屋（古窯館）建設工事に着工する。
- 1993年 3月 18日 古窯館（南山8号窯跡、南山9号窯跡）竣工する。面積344平方メートル。
- 11月 30日 本館、陶芸館増築工事竣工する。面積12,449.91平方メートル。
- 1994年 4月 1日 陶芸館増築部分及び古窯館が開館する。
- 7月 5日 陶磁資料館完成記念式典を挙げる。完成記念特別企画展「東洋陶磁名品展」内覧会
- 7月 6日 本館増築部分が開館する。
- 9月 22日 陶磁資料館完成記念特別企画展「国際現代陶芸展」開会式
- 1998年 4月 4日 開館20周年記念特別展「耀州窯展」開会式
- 10月 3日 開館20周年記念特別展「日本の三彩と緑釉」開会式
- 10月 11日 入館者が150万人を突破する。
- 2000年 4月 1日 陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県総務部文化振興局（企画課）から愛知県県民生活部（文化学事課）に変更になる。
- 2003年 4月 1日 愛知県教育委員会から博物館法第29条に規定する博物館に相当する施設として指定を受ける。
- 6月 10日 皇太子殿下が愛知万博会場を御視察の際、当館を御利用になる。
- 2004年 1月 18日 入館者が200万人を突破する。
- 2005年 3月 20日 愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸—創造と伝統—」合同開会式
- 2006年 4月 1日 陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県県民生活部文化学事課から愛知県県民生活部文化芸術課に変更になる。
- 2008年 4月 5日 開館30周年記念特別企画展「窯変の美」開会式
- 10月 25日 開館30周年記念「陶磁フェスティバル」、特別企画展「海のシルクロードの出発点“福建”」開会式
- 2010年 7月 3日 本館2階常設展・南館常設展リニューアルオープン。「にぎわい創出プロジェクト事業」を実施する。
- 8月 13日 入館者が250万人を突破する。
- 2012年 12月 21日 愛知県陶磁資料館を愛知県陶磁美術館に改正する条例（H24.12.21 愛知県条例第76号）の一部を改正する条例が公布される（H25.6.1 施行）。
- 2013年 5月 1日 愛知高速交通「陶磁資料館南駅」へのアクセス遊歩道土地3,105.12平方メートルが産業労働部（産業科学技術課）から県民生活部（文化芸術課）に所管替えとなる。
- 5月 31日 愛知県陶磁資料館規則を愛知県陶磁美術館規則に改正する規則が公布される。（H25.5.31 愛知県規則第33号、H25.6.1 施行）。
- 6月 1日 開館35周年「愛知県陶磁美術館」新名称記念式典を挙げる。開館35周年・新名称記念特別企画展「一日本・中国・韓国—陶磁の名品、ここに集う」開会式
- 2014年 10月 4日 本館常設展示室（第3展示室～第6展示室）リニューアル開会式。陶磁の名品コーナーを新設する。
- 2015年 5月 23日 入館者が300万人を突破する。

- 2016年 2月 27日 南館常設展リニューアルオープン。
- 2018年 4月 1日 愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県県民生活部（文化芸術課）から愛知県県民文化部（文化芸術課）に変更になる。
- 6月 30日 開館40周年記念特別企画展「知られざる古代の名陶 猿投窯」開会式
- 10月 27日 開館40周年記念特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製ー」開会式
- 2019年 4月 1日 愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県県民文化部（文化芸術課）から愛知県県民文化局文化部（文化芸術課）に変更になる。
- 2020年 4月 11日 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、観覧施設は5.17まで、陶芸館は5.31まで休館。
- 2022年 1月 5日 西館に展示されていた狛犬を本館ロビーに移設。狛犬インスタレーション展示として、常設展示の新たな見どころ、撮影スポットとした。
- 3月 12日 入館者数が350万人を突破する。
- 7月 16日 国際芸術祭「あいち2022」連携企画事業／特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人とのづくりの未来ー」開会式
- 2023年 6月 19日 長寿命化改修工事等のため休館（2025.3.31まで）